

令和元年度香美市教育委員会
施策に関する点検・評価報告書

令和3年5月28日
香美市教育委員会

点検及び評価の概要

平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正に於いて、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされました。

この改正は、効果的な教育行政を推進し、住民の皆様への説明責任を果たしていくことを目的としたものであり、具体的には、教育委員会で、自ら設定した教育に関する基本的な方針や地域の課題等に応じて、教育行政がどのように執行されているのかを点検・評価することになります。

香美市教育委員会は、平成26年度の教育行政方針を基に、「心豊かな人づくり、人権尊重を核としたまちづくり」を推進しています。市民一人一人が、国際化、情報化、高齢化等の社会の変化に対応し得る能力を身につけ、心身ともに健康で調和のとれた人間形成を自ら成し遂げ、自己実現が図れるように、生涯学習の推進体制や環境を整備し、「学びをたのしむ人々が育つ風土づくり」に努めてきました。

このたび、平成25年度の取り組みに対し、自己点検・評価を行うとともに、評価内容の客観性を確保するため、学識経験を有する点検・評価委員から、今後の教育行政の推進についての意見・提言を受けました。これらを「平成26年度香美市教育委員会施策に関する点検・評価報告書」として公表いたします。

教育委員会の点検・評価制度の実施により、教育委員会自らがその成果や課題を確認することで、今後の施策改善に反映させるとともに、目指すべき方向についてより具体的なそして効果的な教育行政の推進を図ることとします。

点検及び評価の構成

平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、市教育委員会では、効果的な教育行政を推進し、市民への説明責任を果たすことができるよう市教育委員会が行う事務の管理・執行状況について点検・評価を実施し、その結果をとりまとめました。

(評価の判断基準)

評 価	判 断 基 準
4	想定以上に成果が得られた。
3	概ね想定どおりの成果が得られた。
2	成果が得られたが、改善の必要がある。
1	成果が得られず、見直しの必要がある。

外部からいただいたご意見

点検・評価の客観性を確保するために、学識経験を有する外部の方を点検・評価委員として、ご意見、ご助言をいただきます。

氏 名	所 属
福石 賢一	高知工科大学教授

結果の公表

- (1)点検・評価の結果については、議会へ提出します。
- (2)市民には、ホームページにより公開します。

令和元年度 外部評価

本報告は、地教行法改正に伴い平成20年度より開始された香美市における教育委員会の施策に対する評価の12回目の報告となる。また本評価の対象である令和元年度は平成26年度を初年度とする香美市教育振興基本計画・後期の初年度に当たる。本評価に当たっては、これまでと同様、市教育委員会から各種資料を提供頂いた。このことに対しこの場を借りて関係各位に謝意を申し上げる。

さて本評価は上に述べた香美市の教育振興基本計画に基づいて策定された36の取組・事業を主たる対象として評価を行ったものである（本年度の取組・事業数は見直しによりこれまでに比べ大幅に厳選されている）。市教育委員会は、市の教育振興基本計画に基づき、その基本理念である「郷土を愛し、未来を拓く人づくり」の下、「1.主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます」、「2.市民が協働し、ともに支え合い、高め合う地域社会を築きます」、「3.夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します」の3つの視点から取組・事業を計画、実施している。具体的には、視点1については学力向上、徳育・体育、幼小連携、いじめ・不登校対策、教員・管理職研修等に関する14事業、視点2については地域での体験活動、食育、子育て支援、地域連携等に関する10事業、視点3については国際バカロレア教育、ICT教育、市内の高校及び大学との連携、生涯学習、教員の働き方改革等に関する12事業が配当され、総計36の取組・事業から構成されている。

これらの取組・事業については各取組・事業毎に、まず教育委員会が内部評価を行いそれぞれに1～4の評価点を付すこととなっている（評価の基準は上記の通り。今年度より4件法に変更）。今年度の評価点の分布は4点が3事業、3点が25事業、2点が8事業、1点が0事業で、36事業中28事業、割合にして78%の取組・事業に3点（＝「概ね想定どおりの成果が得られた」）以上の評価点が与えられている。全体の平均は2.9点で、視点毎の平均はそれぞれ視点1が3.1点、視点2が2.8点、視点3が2.6点となっている。各種資料をふまえて外部評価者が行った評価においては36事業中29事業（81%）の取組・事業が3点以上であると判断され、平均点は2.9点であった。以上から、香美市の教育振興基本計画に基づく教育委員会の取組・事業は総体として現時点で概ね計画通りに実施され、かつそのことによって一定の成果を上げていると判断する。

このことを確認したうえで、以下いくつかの視点から市の教育の現状について確認しておくことにしたい。

<学力>

まず子どもたちの学力について、かつては全国学力・学習状況調査において小中学校を通じ全国平均を下回る状況にあった。しかしそれがこれまでに漸次改善が見られ、平成30年度の調査では小中学校の国語、算数・数学のA問題、B問題の全てで全国平均を上回るに至った。本年度においては中学校でやや全国平均を下回ったもののおおむね一定の水準を維持できていると考えてよいように思われる。なお県独自の学力調査において中学校の英語で県平均に比べやや低めの平均値となっているが、「外国語（英語）教育の推進」事業・取組を通じて今後の改善が期待される。なお、市の教育振興基本計画・後期においては、「探究あふれる 学園都市（まち）香美市」のキャッチフレーズのもと「探究」活動を中心に据えた教育・学習活動の活性化が目指されることになっており、学校教育においては「探究的な授業づくりの推進」を進めていくことになっている。この点についても今後の着実な進展が期待される。

<生活指導>

生徒の行動や生活状況についてはこれまで改善が必要な状況が続いてきた。全国的に見ても高知県で高い水準となっている不登校の出現率については、本市では昨年度に比べ小学校でやや改善が見られたものの、中学校で依然高い出現率が続いている。いじめ認知件数についても、中学校でやや改善したものの小学校で高止まりが見られる（但し、いじめ認知件数に関しては関係者の努力により隠れていたいじめが発見されたという側面も含むことに注意する必要がある）。また児童生徒の生活習慣について言えば、平日に家庭で2時間以上学習する児童生徒の割合が小学校で3人に1人程度、中学校で4人に1人程度であるのに対し、平日にテレビやスマホを2時間以上見たり使ったりする児童生徒は中学校で4割程度、小学校では6割程度に上っているといった将来の学力

への影響が懸念される状況がある。さらに中学生に関しては4人に1人が普段朝ご飯を食べておらず、運動時間が全国平均を下回っている等、引き続き改善に向けた指導の継続が望まれる。

<地域連携>

地域連携については学校運営協議会と地域学校協働本部を核としつつ、2年目となった「よってたかって生涯学習フォーラム」、地域の教育資源を活用した系統的なふるさと学習プログラムや山の学習、伝承教室、キャリアチャレンジデイの高知工科大での開催等、積極的な取り組みが見られ、近年は子どもたちの郷土への愛着の高さ（子育て長期調査において小学生の91.2%、中学生の84.8%が「自分の住んでいるところが好きだ」と回答。H26年度調査では小中合わせて56.1%）をキープしている。

<環境整備>

教育環境の整備に関しては、学校におけるICT機器や図書システム、放課後児童クラブ施設の整備、学校外における子育て広場や一時預かり制度等の拡充、スポーツ施設、図書館等の生涯学習施設の補修・整備が計画的に進められている。

<ICT>

教育におけるICTの活用については、既に子ども達の多くがパソコン等を使って調べ物をする等の経験をするようになってきている。その一方で、情報モラルの教育や興味・関心を高めるICT機器の使用を自信を持って行える教師の割合は高いとは言えない状況にある。市では令和5年度末までにその割合を6割以上とする目標を設定しており、今後研修等による教員のスキルアップが望まれる。

<働き方改革>

今年度より新規取組・事業として「小中学校における働き方改革の推進」が設定された。教員の長時間労働の問題は全国的な課題として近年注目されるようになり、平成31年1月には文部科学省から「教員の勤務時間上限のガイドライン」も出された。本年度の超過勤務80時間以上の教職員の割合は約2割であったが、この割合が0となるよう早急に対策を進めていく必要がある。

<評価システムについて>

今回は教育振興基本計画・後期初年度に当たり、既述のように、取組・事業の精査が行われ、取組・事業数が62から新規のものを含む36に厳選され、5年後に目指すべき姿（目標）とそれに至るために行う取組・事業（手段）の関係の明確化が志向された。このことに合わせて評価のプロセスも変更された。評価に当たってはまず「A. 評価当該年度に達成したい目標」、「B. (A. を達成するために) 評価当該年度に実施を予定する取組・事業」、「C. 計画最終年度（令和5年度）までに達成したい目標」、「D.

(C. を達成するために) 計画最終年度までに実施を予定する取組・事業」について（数値化できるものはできるだけ数値化する等により明確化した上で）、そのそれぞれの令和元年度末における達成状況を確認し個別に評価を行っていただいた。そして最終的にそれらを総合して各取組・事業全体の進捗状況及・成果を数値によって評価していただき、同時にその評価点とした理由を担当者に記入していただいた。このことにより外部評価者は内部評価の数値の意味をよく理解することができ、それを参考にしつつ外部評価を行わせていただいた。今回は以上の一連のプロセスで用いられた情報のすべてを報告書に掲載することはできていないが、今後はそうした情報の開示を含め、教委と市民のコミュニケーションが促進されるようなわかりやすい情報発信を指向していくことが望まれる。

<視点1>

主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます

【関係性】到達目標の達成状況 A:4.3 B:3.2 C:1

(1) きめ細やかな教育・保育の推進と体制整備

行動実績・到達目標の達成状況の内部評価

内部評価

4: 想定以上の成果、3: 概ね想定どおりの成果、2: 成果が得られたが改善が必要、1: 見直しが必要

A: 目標(予定)を達成できた、B: 目標(予定)を一部達成できなかった、C: 目標(予定)をほとんど達成できなかった

対策名	取組の概要	年度当初の現状(課題等)	具体的な到達目標(有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み(計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部評価	外部評価	R1 R2 R3 R4 R5					令和5年度未達成目標(後期到達目標)
									R1	R2	R3	R4	R5	
① 0歳から15歳までの発達段階に応じた保育・教育の推進 (学保)	・学校運営協議会(CS)で、各学校の「めざす子どもの姿」の作成 ・大学教授等を招聘した研修会の実施(保幼小中合同研修会) ・保小連携、小小連携・小中一貫教育の推進 ・個別支援が校種間で切れ目なく引き継ぐための接続支援の実施	平成26年度に「育ちの一覧表」を作成し、キャリア教育の視点とリンクさせながら、発達段階に応じた学びを推進してきた。しかし、5年が経過し見直す時期にきている。 1.「自分にはよいところがあると思いますか」肯定的評価(全国学調)小中ともに全国平均値以上 2.各学校運営協議会(CS)で、目指す子どもの姿に向けた取組を実施する。(取組みを協議・実施 7/10校)	1.「自分にはよいところがあると思いますか」肯定的評価(全国学調)小中ともに全国平均値以上 2.各学校運営協議会(CS)で、目指す子どもの姿に向けた取組を実施する。(取組みを協議・実施 7/10校)	①各学校運営協議会(CS)で、目指す子どもの姿に向けた協議・取組を実施(地域学校協働本部の活動含む) ②講師を招聘した保幼小中合同研修会の実施 ③小1と中1の見届け訪問、年長児の事前把握と情報収集 ④保小連携、小小連携・小中一貫教育の推進 ⑤個別支援が校種間で切れ目なく引き継ぐための接続支援の実施	【評価 B】 ①各学校運営協議会(CS)で2~4回実施(地域学校協働本部総会実施(5校)) ②保幼小中合同研修会(8月17日実施) ③研究所と協力して、4~5月に小1は見届け訪問、中1は未実施。 ④一貫教育の推進をするための佐伯市視察(3名) ⑤個別支援が校種間で切れ目なく引き継ぐための接続支援の実施・引継ぎシートの活用、引継ぎ支援会議の実施(100%)	【評価 B】 1.「自分にはよいところがあると思いますか」肯定的評価(全国学調)小89.1(全国平均81.2)、中77.2(全国平均74.1) 2.各学校運営協議会(CS)で、目指す子どもの姿に向けた取組を実施。(10校)	3	3	① 学校運営協議会の充実 ② 保幼小中合同研修会 ③ 育ちの連携事業 ④ 育ちの連携充実事業 ⑤ 接続充実事業	各中学校で「育てたい子ども像」に基づいた小小連携、小中連携教育への体制づくりが進む。また、鏡野中学校区では、山田小学校を軸とした小小連携が充実し、中学校への円滑な接続が行われる。 1.「自分にはよいところがあると思いますか」小6・中3 87%以上 2.各中学校区で系統的な連携プログラムの作成 100%				
② 共生社会をめざすインクルーシブ教育の充実 (学校)	・校内支援会を機能させた組織的な 校内支援体制の確立 ・教職員の資質・専門性の向上 ・特別支援学級・通級指導教室・通常学級への指導・支援の充実 ・就学や進路相談体制の充実 ・山田養護学校のセンター的機能や各種サポート事業の活用 ・効果的な交流教育の実践研究 ・専門性の充実した総合教育支援センター設置に向けた研究の推進	特別な教育的支援の必要な子ども、家庭の出現率増加。個々の子どもの特性や、家庭のニーズに応じた適切な教育的支援の充実と、共生社会の実現に向けた取組の推進が課題。 1.個別の指導計画・支援計画の両方をもとにした指導・支援が行われている:小 57.3% 中 51.4%(県特支実態調査) 2.校内支援会を月1回以上実施した学校 5校 (県特支実態調査) 3.個別の指導計画に基づいた指導が充分に行えた:【4件法】小中 2.85(市UDチェックシート)	1.切れ目のない支援の充実に向け、特別支援学級の児童生徒に対して個別の支援計画を作成する。(作成率100%) 2.個別の指導計画・支援計画の両方をもとにした指導・支援が行われている:小 57.3% 中 51.4%(県特支実態調査) 3.校内支援会を月1回以上実施した学校 5校 (県特支実態調査) 4.個別の指導計画に基づいた指導が充分に行えた:【4件法】小中2.85(市UDチェックシート)	・特別支援学級の児童生徒に対して個別の支援計画を作成する。 ・校内支援会へのSC・SSWの参加を推進することで活性化を図り、支援の必要な児童生徒の変容を月1回は評価。 ・県のサポート事業や市の研修を計画的に活用し、特別支援学級・通級指導教室・通常学級への指導・支援を充実。 ・就学等事務及び教育支援に関する連絡協議会に3名以上参加。 ・総合教育支援センター設置に向けた情報収集と関係機関の役割分担。	【評価 A】 ①特別支援学級的全児童生徒に対して個別の支援計画を作成。 ②校内支援会(1月末まで実施63件)へのSC・SSWの参加を推進することで活性化を図り、支援の必要な児童生徒の変容を月2回の連携会議で評価した。 ③県のサポート事業(6回)、市の研修(管理職研修1回・特支コーディネーター研修4回・支援員研修3回・専門研修1回・セミナー1回・通級担当者研修3回)の実施。 ④就学等事務及び教育支援に関する連絡協議会に4名参加し教育相談事業の理解と充実を図った。 ⑤発達障害庁内連絡会で総合教育支援センター設置に向けた資料提供(1回)。	【評価 A】 1.切れ目のない支援の充実に向け、特別支援学級の児童生徒に対して個別の支援計画を作成する。(作成率100%) 2.個別の指導計画・支援計画の両方をもとにした指導・支援が行われている:小 100% 中 100%(県特支実態調査) 3.校内支援会を月1回以上実施した学校 10校 (聴き取り調査) 4.個別の指導計画に基づいた指導が充分に行えた:【4件法】小中2.9(市UDチェックシート)	4	4	① 校内支援活性化事業 ② 校内支援充実事業 ③ インクルーシブ教育モデル推進事業 ④ 総合教育支援センター ⑤ 総合教育支援センター設置事業	障害の有る無しにかかわらず、個々の子どもの特性や、家庭のニーズに応じたオーダーメイドの支援や合理的配慮が提供されるときにも、誰もが輝いて生きる共生社会の実現に向けた総合教育支援センターの設置を目指す。 1.個別の指導計画・支援計画の両方をもとにした指導・支援が行われている:小中ともに100% 2.全ての学校で校内支援会を月1回以上実施 3.個別の指導計画に基づいた指導が充分に行えた 小中 3.20				
③ 不登校対策 (学校)	・アウトリーチ型SC、学校配置SC、SSWと連携して、個々の状況に応じた支援の実施 ・教育支援センターの施設や機能の向上 ・引き継ぎシートにより抜かりのない情報共有と温かい学級づくり研修の実施 ・SC等を講師とした児童生徒理解に関する研修の実施 ・支援記録や支援計画等を記載したシートを活用し、課題に応じた支援の実施	保育所要支援児の高い出現率が続くなか、小学校の欠席児童は低い出現率を維持してきたが、平成30年度はついに増加傾向がみられた。一方、一旦は減少していた中学校が平成28年度を境に急激に増加し、小学校時に回復していた児童が中学入学後再度出現したり、小中学校ともに新規者が出現している。集団に馴染みにくく個別対応を求めている児童生徒や家庭が増え、早期からの手立てとともに系統的な教育支援を効果的に行うことが課題である。	平成30年度増加計画が見られた小学校の出現率に歯止めをかける。中学校は減少傾向に維持する。 1.長期欠席児童生徒出現率、平成30年度:小(1.79%)中(7.56%)より下回る。H31年度目標:小(1.26%)平成29年度末数値:小(7.11%)新規が発生しなかった場合の数値 2.中1ギャップ解消に向けて組織的な小中連携の取組が行われているが学校の割合:小中70%以上	・不登校児童生徒の多い学校の登校支援委員会に、関係機関が参加。 ・引き継ぎシートによる抜かりのない情報共有と温かい学級づくりの推進。 ・県教委や心の教育センター等の専門家チームとの連携による、学びにくさを持つ児童生徒の学力不振に対する早期対応と改善の手立て。 ・中1ギャップ解消に向けて組織的な小中連携の取組が行われているが学校の割合:本年度は評価できる調査が実施されず数値に表せないが、小中連携は、体験入学だけでなく支援会議や児童生徒交流で実施されている。	【評価 A】 ①不登校児童生徒の多い学校の登校支援委員会に、関係機関(ふれんどる一む・教育研究所・育成センター・市教委)が月1~2回参加。 ②引き継ぎシートによる抜かりのない情報共有を特支コーディネーター研修で確認(1回)。温かい学級づくりについて生徒理解セミナーを実施(1回)。 ③学びにくさを持つ児童生徒の学力不振に対する早期対応と改善の手立てとして、WISC IV理解研修1回、多層指導モデルMIM研修セミナー実施(1回)。	【評価 B】 ・平成30年度増加傾向が見られた小学校の出現率は、12月末現在1.18%(昨年度同時期1.43%)で、年度末1.79%は下回れる見込み。中学校は、7.59%と、増加傾向のままで(昨年度末7.56%)調査開始から最も高い出現率となる見込み。 ・中1ギャップ解消に向けて組織的な小中連携の取組が行われている学校の割合:本年度は評価できる調査が実施されず数値に表せないが、小中連携は、体験入学だけでなく支援会議や児童生徒交流で実施されている。	3	3	① 学校に行こうプロジェクト ② 香美市の未来夢いっぱいプロジェクト ③ 発達障害等の二次障害の予防と改善	校内支援会において児童生徒ごとのリスクレベルを判断し、専門家からの助言も取り入れて適切な見立てを行い、その見立てをもとに組織的に対応する。 1.長期欠席児童生徒出現率、平成27年度以下、中学校は高知県並み「小1.17%、中 6.18%」以下 2.中1ギャップ解消に向けて組織的な小中連携の取組が行われている学校の割合:小中 70%以上				
④ いじめ対策・問題行動対策 (学育)	・児童生徒等自立支援教室の開催。 ・教育相談活動の充実。 ・開発的な生徒指導に関する知識理解を深められる研修会や校種間連携の推進に向けたチーム学校としての組織的な取組の推進。 ・「香美市いじめ対策基本方針」に基づく、きめ細やかな支援。 ・PDCAサイクルによる迅速な対応と取組評価を実施。	いじめ対策推進法の策定により、いじめ認知件数が増加。軽微な事案をしっかりと指導することで、重篤ないじめ事案を発生させない学級づくりを進めている。 非行型の生徒の息学や問題行動への支援等、安定した支援が不十分である。 1.集団づくりに関する取組を行い、望ましい人間関係の構築や安心できる居場所づくりにつなげている:レベル2(4件法:チーム学校チェックシート) 2.「いじめはどんなことがあってもいけない」強い肯定回答:小87%、中85%(全国学調) 3.問題行動等による進路未決定者数:8名(学校別調査)	「高知家」児童会・生徒会交流集会への取組を通して、いじめゼロの意識を育てる。 1.集団づくりに関する取組を行い、望ましい人間関係の構築や安心できる居場所づくりにつなげている:レベル2(4件法:チーム学校チェックシート) 2.「いじめはどんなことがあってもいけない」強い肯定回答:小87%、中85%(全国学調) 3.問題行動等による進路未決定者数:8名(学校別調査)	・非行傾向のある児童生徒に対し、学校生活への復帰を支援する児童生徒等自立支援教室を開催。 ・関係機関が登校支援委員会に参加し、学校生活への復帰を支援。 ・香美市いじめ問題対策連絡協議会の実施(年2回)	【評価 A】 ①関係機関が登校支援委員会に参加し、学校生活への復帰を支援。(月1回) ②香美市いじめ問題対策連絡協議会の実施(年2回) ③「高知家」児童会・生徒会地区別交流集会への参加(小中学生9名参加) ④令和元年度の児童生徒等自立支援教室は、対象者がなかった。	【評価 B】 ①生徒指導の初期対応についての指導・支援体制を確立している:レベル3(4件法:チーム学校チェックシート)の項目変更あり) ②「いじめはどんなことがあってもいけない」強い肯定回答:小90.8%、中83.9%(全国学調) ③問題行動等による進路未決定者数は3名。(家庭訪問や電話連絡等を継続している。)	3	3	① 児童生徒等自立支援教室 ② 児童生徒自立支援教室の充実 ③ いじめ防止対策の充実	生徒指導上の諸課題は、発見や対応が遅れることがないように、未然防止や早期対応の取組がなされる。また、関係機関との連携によるきめ細かな支援を徹底する。安定的に児童生徒等自立支援教室を開催し、学校復帰や進路達成につながる。 1.集団づくりに関する取組を行い、望ましい人間関係の構築や安心できる居場所づくりにつなげている:レベル3以上(4件法) 2.「いじめはどんなことがあってもいけない」強い肯定回答 95.0% 3.問題行動等による進路未決定者:現状以下				

<視点1>

主体的に学び、社会を生き抜く力を持った人材を育てます

(2) 活力ある保育所・学校づくりの推進

【関係性】到達目標の達成状況 A:4.3 B:3.2 C:1

対策名	取組の概要	年度当初の現状 (課題等)	行動実績・到達目標の達成状況の内部評価			内部評価					令和5年度末達成目標 (後期到達目標)
			具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部評価	外部評価	R1	R2	
① 保育職員の研修の充実 (保)	<ul style="list-style-type: none"> 個人の資質の向上を図り、保育所全体としての保育の質の向上 保育職員総合研修で専門家による講義を実施。 部会で外部研修への参加 「高知県教育・保育の質向上ガイドライン」の導入、活用 ティーチャーズトレーニングの受講。 職員へのアンケートの実施 	発達障害等のある子どもに対する専門的な指導や支援に加え、入所している子どもの保護者への支援も求められている。職位や職務に応じた研修の他、専門的な知識や技能を修得する必要がある。 1. 保育職員総合研修で専門家による講義を実施する。H29年度100% (年4回) 2. 18部会に分かれた保育・給食職員相互の研修【部会】4回中1回外部研修に参加する。H29年度56% (10/18部会) 3. ティーチャーズトレーニングの受講 H29年度83% (5/6園から参加)	1. 保育職員総合研修で専門家による講義を実施する。100% (年4回) 2. 18部会に分かれた保育・給食職員相互の研修【部会】4回中1回外部研修に参加する。65% (12/18部会) 3. ティーチャーズトレーニングの受講 100% (全6園から参加)	<ul style="list-style-type: none"> 個人の資質の向上を図り、保育所全体としての保育の質の向上 保育職員総合研修で専門家による講義を実施 部会で外部研修への参加 「高知県教育・保育の質向上ガイドライン」の導入、活用 ティーチャーズトレーニングの受講 職員へのアンケートの実施 	【評価 B】 ①個人の資質の向上を図り、保育所全体としての保育の質の向上 ②部会で外部研修への参加 ③「高知県教育・保育の質向上ガイドライン」の導入、活用 ④ティーチャーズトレーニングの受講 ⑤職員へのアンケートは実施できなかった	【評価 B】 1. 保育職員総合研修で専門家による講義を実施する。100% (年4回) 2. 17部会に分かれた保育・給食職員相互の研修【部会】4回中1回外部研修に参加する。35% (6/17部会) 3. ティーチャーズトレーニングの受講 83% (6園中5園から参加)	3	2	①保育職員総合研修の実施、部会の実施 ②「高知県教育・保育の質向上ガイドライン」の導入 ③「ガイドライン」の活用 ④アンケートの実施 ⑤ティーチャーズトレーニングの実施(内容の見直しと並行)	個人が知識や技能を修得することで保育全体の質向上に繋がるよう研修への参加を推進し、子どもの健やかな成長を保障するとともに保護者の子育てを支援する。 1. 保育職員総合研修で専門家による講義を実施する。100% (年4回) 2. 4回の部会のうち1回は外部研修に参加する。85%以上 (16/18部会) 3. ティーチャーズトレーニングの受講100% (各園1名6/6園) 個人が知識や技能を修得することで保育全体の質向上に繋がるよう研修への参加を推進し、子どもの健やかな成長を保障するとともに保護者の子育てを支援する。	
② 保育所・学校組織としてのマネジメント力の強化 (学保)	<保育> ・園長研修及び主任保育士研修によるマネジメント研修の受講(対象職員全員) ・「県教育・保育の質向上ガイドライン」を使った園内研修の実施。(年1回以上) <小中> ・小中学校での学校経営計画の実施 (PDCAサイクルで組織マネジメントの推進) ・定例の園長会や校長会の実施: 毎月 ・自主小中校長会の実施(研修): 毎月 ・小中教頭会の実施: 各月 テーマ(特別支援教育、学力問題、教育課程、情報教育、業務改善等) ・学校事務室(共同実施)の体制整備	・保育所保育指針や学習指導要領が改訂され、教育を取り巻く状況はめまぐるしく変化するなかで、管理職等を中心とした、高いマネジメント力が必要である。 1. 教育センターが実施する園長及び主任保育士研修受講者 10/21でCが6% 2. 保育の「県教育・保育の質向上ガイドライン」を使った園内研修の実施 4園 3. 小中学校の学校経営計画(ABC)でCが13% 4. 小中学校のチーム学校を構築するチェックシート(教育課程、授業と学習状況、生徒指導)の内部評価: 平均2.2(幅1.4~2.7・4件法)	1. 教育センターが実施する園長及び主任保育士研修受講者 10/21でCが6% 2. 保育の「県教育・保育の質向上ガイドライン」を使った園内研修の実施。(年1回以上) <小中> ・小中学校での学校経営計画の実施(組織的な取り組み・メンバー、タテ持ち、教科間連携) ・定例の園長会や校長会の実施: 毎月 ・自主小中校長会の実施(研修): 毎月 ・小中教頭会の実施: 各月 テーマ(特別支援教育、学力問題、教育課程、業務改善等) ・学校事務室・共同実施運営協議会の開催、体制整備	【評価 B】 <保育> ①園長研修及び主任保育士研修によるマネジメント研修の受講(対象職員全員) ②「県教育・保育の質向上ガイドライン」を使った園内研修の実施。(年1回以上) <小中> ・小中学校での学校経営計画の実施(組織的な取り組み・メンバー、タテ持ち、教科間連携) ・定例の園長会や校長会の実施(研修): 毎月 ・自主小中校長会の実施(研修): 毎月 ・小中教頭会の実施: 各月 テーマ(特別支援教育、学力問題、教育課程、業務改善等) ・学校事務室・共同実施運営協議会の開催、体制整備	【評価 B】 <保育> 1. 教育センターが実施する園長及び主任保育士研修受講者(受講中及び受講済15/21人 71%) 2. 保育の「県教育・保育の質向上ガイドライン」を使った園内研修の実施(4/6園活用 67%) <小中> 3. 小中学校の学校経営計画(ABC) 2月末 4. 小中学校のチーム学校を構築するチェックシート(教育課程、授業と学習状況、生徒指導)の内部評価: 平均2.8(幅2.5~3.0・4件法)	3	3	①保育園長及び主任保育士研修の充実 ②園内研修の充実 ③小中学校の管理職育成プログラム ④小・中管理職合同研修の実施 ⑤学校事務体制の強化	保育所や学校が、PDCAを回しながら、高いマネジメント力を備え、時代に順応した経営ができています。 1. 教育センターが実施する園長研修及び主任保育士研修受講者 100% 2. 「県教育・保育の質向上ガイドライン」を使った園内研修の実施 6園・100% 3. 学校経営計画(ABC)で100% 4. チーム学校を構築するチェックシート(教育課程、授業と学習状況、生徒指導)の内部評価: 平均2.5(最低評価2.0、4件法)		
③ 小中の教職員に対する研修の充実 (学校)	ア全体研修会(市主催) *アイ= 悉皆研修 ・保小中管理職研修会 ・教職員研修会(4月・8月) ※8月は保小中合同研修会とする。 ・教育研究会(年5回) ・教育研究所 研究発表会(2月) イ担当者研修会(市主催) ・研究主任会 ・キャリア担当者会 ・外国語推進委員会 ・特別支援教育コーディネーター研修会 ウ県主催研修会 ・県学力向上研究主任会 ・教育課程研修会 ・管理職研修 ・年次研修	香美市教職員研修会の実施により、香美市の教育の方向性や課題を共有している。また、香美市教育研究会や各種研修会を通して、研修の充実を図っている。 また、小中連携を軸とした教育研究会の実施により、教科、領域の両面において連携が進んでいる。 1. 8月の研修後のアンケート結果「実践に生かせる内容であった」99% 2. 小・国+1.2P、算+3.4P 中・国+2.0P、数+2.3P 「全国学調」(全国平均との差) 3. 「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」強い肯定: 小35.2% 中40.7%「全国学調」	1. 8月の教職員研修後のアンケート結果「実践に生かせる内容であった」99% 2. 小・国+1.5P、算+2.7P 中・国+2.6P、数+4.2「全国学調」(全国平均との差) 3. 「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」強い肯定: 小37% 中42%「全国学調」	【評価 B】 ①全体研修会(市主催) ・保小中管理職研修会 ・教職員研修会(4月・8月) ※8月は保小中合同研修会とする。 ・教育研究会(年5回) ・教育研究所 研究発表会(2月) イ担当者研修会(市主催) ・研究主任会 ・道徳教育推進地区協議会 ・外国語推進委員会 ・特別支援教育コーディネーター研修会 ウ県主催研修会 ・県学力向上研究主任会 ・教育課程研修会 ・管理職研修 ・年次研修	【評価 B】 ①全体研修会(市主催) ・保小中管理職研修会 ・教職員研修会(4月・8月) ※8月は保小中合同研修会とする。 ・教育研究会(年5回) 年間5回実施 →2月22日実施 ②担当者研修会(市主催) ・研究主任→5月9日、2月20日実施 ・道徳教育推進地区協議会 年間5回実施 ・特別支援教育コーディネーター研修会 ③県主催研修会 ・県学力向上研究主任会→6月18日、2月6日実施 ・教育課程研修会→7月29日実施 管理職研修→校長会研修・教等会研修※実施回数は年次により異なる。 ・年次研修→若年研修(1年次、2年次、3年次、7年次)の実施、中堅教諭等資質向上研修の実施 ※実施回数は年次により異なる。	【評価 B】 香美市教職員研修会の実施により、香美市の教育の方向性や課題が共有できた。また、香美市教育研究会や各種研修会を通して、日々の授業改善に繋げることができた。 また、小中連携を軸とした教育研究会の実施により、互いの授業を見合うなどして教科、領域の両面において連携が進んだ。 1. 8月の研修後のアンケート結果「実践に生かせる内容であった」99.6% 2. 小・国+6.2p 算+3.4p 中・国-2.8p 数-0.8p 「H31全国学調」(全国平均との差) 3. 「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」強い肯定: 小26.6% 中31.5%「全国学調」	3	3	①「チーム香美市」充実事業 ~全体研修~ ②「チーム香美市」充実事業 ~担当者研修~ ③県との連携充実事業	教職員研修会を通して、香美市の教育の方向性等について周知するとともに、各学校において、研修内容を具体的実践に生かす研究体制ができています。 1. 「実践に生かせる内容であった」100% 2. 小中学校ともに国、算・数 +5P以上 3. 「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」強い肯定: 小40.0% 中45%	

対策名	取組の概要	年度当初の現状 (課題等)	行動実績・到達目標の達成状況の内部評価				内部評価					令和5年度末達成目標 (後期到達目標)				
			具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部評価	外部評価	R1	R2	R3		R4	R5		
④ 保小連携教育の 推進 (学保)	・年間を通した互恵性のある保育園と小学校との交流活動の充実 ・5歳児後半の年間計画の作成 ・幼児教育を取り入れたスタートカリキュラムの実施 ・各小学校区での系統的な連携教育の推進	5年前に保小連携の指定(2年間)を受け、小学校教員による保育体験やアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの作成などを行ってきたが、まだまだ不十分である。 1.小学1年生の「学校に行きたくないようなことがありますか」(Q-Uアンケート)否定的回答 18% 2.小学校教員による保育体験実施7校(聞き取り) 3.小学校の保育園・幼稚園との交流活動7校(聞き取り) 4.小学校を見据えた保育園の5歳児後半の年間計画 6園中1園(R1保幼小連携・接続の実施状況アンケート県調査)	1.各学校で作成した「スタートカリキュラム」実施100% 2.小学1年生の「学校に行きたくないようなことがありますか」(Q-Uアンケート)否定的回答 18%以下 3.小学校教員による保育体験実施7校(聞き取り) 4.小学校を見据えた保育園との交流活動7校(聞き取り) 5.保育園・幼稚園との交流活動7校(聞き取り) 6.園中1園(R1保幼小連携・接続の実施状況アンケート県調査)	・幼児教育を取り入れたスタートカリキュラムの実施 ・小学校教員による保育体験実施 ・年間を通した互恵性のある保育園・幼稚園と小学校との交流活動の充実 ・保幼小連携だよりの発行(年2回)	【評価 B】 ①幼児教育を取り入れたスタートカリキュラムの実施(7校) ②小学校教員による保育体験実施(6校) ③年間を通した互恵性のある保育園・幼稚園と小学校との交流活動の実施(7校) ④保幼小連携だよりの発行(4月・7月発行)	【評価 B】 1.各学校で作成した「スタートカリキュラム」実施(100%) 2.小学1年生の「学校に行きたくないようなことがありますか」(Q-Uアンケート)結果 否定的回答) 22.8% 2.小学校教員による保育体験実施(6校) 3.小学校の保育園・幼稚園との交流活動の実施(7校) 4.小学校を見据えた保育園の5歳児後半の年間計画の作成(1園)(R1保幼小連携・接続の実施状況アンケート県調査)	3	3	3	3	3	3	3	3	4: 想定以上の成果、3: 概ね想定どりの成果、2: 成果が得られたが改善が必要、1: 見直しが必要	全園が5歳児後半の年間計画作成や全小学校で、幼児期を取り入れたスタートカリキュラムを実施することにより、滑らかな小学校への移行ができる。 1.小学1年生の「学校に行きたくないようなことがありますか」否定的回答 15%以下 2.小学校教員による保育体験7校 3.小学校の保育園・幼稚園との交流活動7校 4.小学校教育を見据えた5歳児後半の年間計画の作成(全保育園・幼稚園)
⑤ 小小連携 ・小中一貫教育 の推進 (学校)	・コミュニティ・スクールを核とした小小連携・小中一貫教育を推進 ・香北中学校区、大柄中学校区において、「育てたい子ども像」に基づいた校種連携、交流教育等の具体的実践を推進 ・鏡野中学校区では、5小学校の連携を推進し、中学校へのスムーズな接続 ・連携型小中一貫教育をめざす	すべての中学校区で、小中合同教職員連絡会が実施されている。また、各小学校区・中学校区で、年度末、支援の必要な幼児や児童を中心とした引き継ぎ会を実施している。 互いの理解はすすんでいるが、校種間での接続が十分でない。新規不登校新中1年生が多く、中1ギャップの解消が十分でない。 1.引き継ぎ会を実施している学校 100% 2.新規長期欠席 新中1年生 9名 3.近隣の小・中と、教育課程に関する共通の取組を行った(強い肯定) 20%(全国学調)	<鏡野中学校区> 総合的な学習の時間を軸とした5小学校の連携を推進する。 <香北中学校区> 小学校の教職員が、IB(バカロレア)教育について理解を深め、研究推進を図る。 <大柄中学校区> 起業家教育における研究の充実を図る。 ・引き継ぎ会を実施している学校 100% ・新規不登校中学生を平成30年度より減少させる(9名未満)	<鏡野中学校> 9年間で繋ぐ、「生活・総合的な学習の時間の一覧表」をもとに、児童生徒の育ちをもとにした実践交流の充実を図る。 <香北中学校区> ・IBに関する小中合同研修会を実施する。 ・小中ともに授業参観を行い、互いの授業を見合う機会を設ける。 <大柄中学校> 総合的な学習の時間を活用し、起業家教育の具体的な授業実践を行う。 ・楽しい学級づくりアンケート(Q-Uアンケート)の改訂に伴う情報提供を行う。 ・学期末にSC・SSW合同連絡会を実施し、アセスメントによる現状把握と検討を行う。	【評価 B】 <鏡野中学校> 楠目小学校にて、「生活・総合的な学習」の公開授業研究会を開催や市教育研究会の部会等を活用し、実践交流の充実を図ることができた。 <香北中学校区> ・IBに関する小中合同研修会を実施した。(8月に実施) ・授業参観の日を開催し、互いの授業を見合う機会を設けた。(年間3回) <大柄中学校> 総合的な学習の時間を活用し、小中連携のもと、ものべっ子商店を企画・運営を行うことができた。起業家教育の具体的な授業実践を行った。 ・楽しい学級づくりアンケート(Q-Uアンケート)の改訂に伴う情報提供を行う。 ・学期末にSC・SSW合同連絡会を実施し、アセスメントによる現状把握と検討を行う。	【評価 B】 <鏡野中学校区> 実践交流の機会を設けることができた。総合的な学習の時間を軸とするためには、カリキュラムマネジメントの研究が不十分であった。 <香北中学校区> 授業や研修会を通して、小中学校の教職員が、IB(バカロレア)教育について理解を深め、授業実践に繋げることができた。 <大柄中学校区> ものべっ子を通して、小中学生の学習を地域に発信できた。次年度以降は、山田高校との連携を図り、起業家教育の更なる充実を図る。 ・引き継ぎ会を実施している学校 100% ・新規不登校中学校生徒数10名(R2.1月現在)	3	3	3	3	3	3	3	3	4: 小中一貫教育推進事業	各中学校区で「育てたい子ども像」に基づいた小小連携、小中連携が推進され、香北・大柄中学校区では、小中一貫教育への体制づくりが進む。鏡野中学校区では、山田小学校を軸とした小小連携が充実し、中学校への円滑な接続が行われる。 1.引き継ぎ会を実施している学校 100% 2.新規長期欠席 新中1年生 5名 3.近隣の小・中と、教育課程に関する共通の取組を行った(強い肯定) 50%

<視点1>

主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます

(3) たくましく生きる人間力を培う教育の推進

【関係性】到達目標の達成状況 A:4.3 B:3.2 C:1

対策名	取組の概要	年度当初の現状 (課題等)	行動実績・到達目標の達成状況の内部評価			内部評価					令和5年度末達成目標 (後期到達目標)
			具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部評価	外部評価	R1	R2	
① 学力向上対策 (学校)	<ul style="list-style-type: none"> 大学教授等を招聘した、公開授業研修会の実施 学力に係る先進地視察実施 研究主任会の実施 標準学力調査による到達度把握 学力向上支援員の配置 高知工科大学生、山田高校生による学習ボランティア活動の推進 	中学校の学力は改善傾向にあり、小学校は全国平均程度の学力を維持している。一方で、低学力の児童生徒への個に応じた支援が必要。 1.小:国+1.2P,算+3.4P 中:国+2.0P,数+2.3P 「全国学調」(全国平均との差) 2.小:+0.3P~-+3.4P 中:-0.3P~-+8.5P29 「県学調」(県平均との差) 3.小2~5:国75.7% 算79.3% 中1~2:国66.9% 数65.6% 「標準学力調査」(達成率平均)	1 全国学調(全国平均との差) 国、算・数→小中とも+3p以上 2 県学調(県平均との差) 小中とも+3p以上 3 「標準学力調査」(達成率平均) 小2~5:国・算ともに80% 中1~2:国・算ともに70%	<ul style="list-style-type: none"> 各種調査による実態把握及び分析・授業改善 研修会の充実 <ul style="list-style-type: none"> 香美市教職員研修会の開催(内容:幼幼小中連携) 研究主任会の実施(4月2月) 先進地視察の実施 市内中学校公開授業研究会の実施 学力課題克服のための補助ワークシートの配布(中学校全学年 国・英) 個の課題に対応できる学力向上支援員の配置(学習ボランティアを含む) 	【評価 B】 ①各種調査による実態把握及び分析・授業改善 ②研修会の充実 ・香美市教職員研修会(8月17日実施) ・研究主任会(5月9日・2月20日実施) ・先進地視察 秋田県(11月)、大分県(12月)、大阪府(2月) ・市内公開授業(全26回実施) ③→ワークシート配布完了(6月) ④→全学校に配置	【評価 B】 1 H31 全国学調(全国平均との差)小:国+6.2p 算+3.4p 中:国-2.8p 数-0.8p 2 H31県学調(県平均との差) 2月21日公表予定 3 H31「標準学力調査」(達成率平均) 小2~5:国 72.9% 算 77.6% 中1~2:国 71.7% 数 56.7%	3	2	①授業改善推進事業 ②学力向上支援事業 ③個に応じた学力支援事業	小中ともに全国平均以上の学力を維持しながら、低学力の児童生徒への手立てが充実し、学力が保障される。 1.小中学校ともに 国、算・数 +5P以上 2.小中学校ともに +5P 3.小2~5:国・算ともに80% 中1~2:国・算ともに70%	
② 探究的な授業づくりの推進 (学校)	<ul style="list-style-type: none"> 大学教授等を招聘した研修会の実施 探究的な授業づくりに係る先進地視察実施 総合的な学習の時間を核としたカリキュラムマネジメント 学校図書館及びICTを活用した授業の充実 学校図書支援員の配置 学校図書館コーディネーターの配置 ICT支援員の配置 学校図書館システムの活用充実 	全体として中学校の学力は改善傾向にあり、小学校は現状を維持しているが、新学習指導要領の趣旨に基づいた授業改善が不十分である。 1.小:国+1.2P,算+3.4P 中:国+2.0P,数+2.3P「全国学調」(全国平均差) 2.「昨年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。」強い肯定:小29.0%中29.7%「全国学調」 3.「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」強い肯定:小35.2%中40.7%「全国学調」	1「全国学調」(全国平均との差) 国語、算・数→小中とも+3P以上 2「全国学調」(質問紙) (1)「前年度のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。」強い肯定:小・中とも30%以上 (2)「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」強い肯定:小37% 中42%	<ul style="list-style-type: none"> 研修会の充実 <ul style="list-style-type: none"> 香美市教職員研修会の実施 探究的な授業づくりに係る先進地視察実施 研究主任会の実施 市内中学校の公開授業研究会の実施 支援員の配置 <ul style="list-style-type: none"> ICT支援員の配置 学校図書支援員の配置 学校図書館及びICTを活用した授業の充実(支援との連携) 	【評価 A】 ①研修会の充実 ・香美市教職員研修会(8月17日実施) ・先進地視察 秋田県(11月)、大分県(12月) ・研究主任会(5月9日・2月20日実施) ・公開授業研究会(全26回実施) ②支援員の配置(教育研究所・各学校) ③図書支援員の研修会(及び学校図書館を活用した授業に係る公開授業研究会を開催)	【評価 B】 1 H31 全国学調(全国平均との差)小:国+6.2p 算+3.4p 中:国-2.8p 数-0.8p 2「全国学調」(質問紙) (1)「前年度のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。」強い肯定:小38.6% 中33.6% (2)「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」強い肯定:小26.6% 中31.5%	3	3	①授業改善推進事業 ②探究的な授業づくり充実事業 ③学校図書館活用充実支援事業 ④IB認定校としての成果発信(大宮小学校)	新学習指導要領の趣旨に基づいた授業が展開され、新学力観に対応した学力が保障されている。 1.小中学校ともに国語、算・数 全国との差+5P以上 2.「前年度のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。」強い肯定:小・中ともに35.0%以上 3.「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」強い肯定:小40% 中45%	
③ 豊かな心の育成 (道徳・人権) (学生)	<ul style="list-style-type: none"> 香美市道徳教育推進地区協議会の実施 香美市いじめ防止サミットの実施 いじめと虐待に関する研修会や学校生活アンケート(いじめアンケート)の実施 道徳参観日や人権参観日の実施 	「特別の教科 道徳」が実施されることを踏まえて、リーダー教員の育成や推進拠点校の研究に積極的に取り組んでいる。いじめ認知は高まってきたが、からかいや悪口が暴力につながるケースもあり、自己肯定感の向上が課題である。 1.「家の人と道徳の話をした、家庭で取り組む高知の道徳を読んだりしている:小中48.3%(県道徳意識調査) 2.「自分にはよいところがあると思う」肯定的回答:全国比(小-1.9P 中+2.9P)(全国学調) 3.パソコンや携帯電話でイヤなことされた:2.9%(子どもの育ち長期調査)	道徳教育推進拠点校事業の推進校である舟入小学校の中間発表会に全小中学校が参加し、教科化の充実をめざす。いじめ認知はアンテナ高く、初期対応を充実させる。 1.「家の人と道徳の話をした、家庭で取り組む 高知の道徳を読んだりしている:小中 48.3%(県道徳意識調査) 2.「自分にはよいところがあると思う」肯定的評価(全国学調)小中ともに全国平均値以上 3.パソコンや携帯電話でイヤなことをされた: 2.9%(子どもの育ち長期調査)	<ul style="list-style-type: none"> 香美市道徳教育推進地区協議会の実施 いじめ防止サミット(東部地区)への全小中学校参加 いじめと虐待に関する研修会や学校生活アンケート(いじめアンケート)の実施 全小中学校で道徳参観日・人権参観日を実施 	【評価 A】 ①香美市道徳教育推進地区協議会(5回実施) ②「高知家」児童会・生徒会地区別交流集会への参加(小中代表9名) ③いじめと虐待に関する研修会や学校生活アンケート(いじめアンケート)の実施(100%) ④全小中学校で道徳参観日・人権参観日を実施(100%)	【評価 B】 1.「家の人と道徳の話をした、家庭で取り組む 高知の道徳を読んだりしている:小中 52.7%(県道徳意識調査) 2.「自分にはよいところがあると思いますか」肯定的評価(全国学調)小中ともに全国平均値以上 小89.1(全国平均81.2)、中77.2(全国平均74.1) 3.パソコンや携帯電話でイヤなことをされた小3.9%・中3.2%(子どもの育ち長期調査)	3	3	①わがまちの道徳教育充実 ②香美市いじめ防止サミット準備 ③香美市いじめ防止サミットII	学校・家庭・地域が連携して、道徳・人権教育を推進する。児童生徒の人権意識の向上を図るとともに、一人一人の人権が尊重される学校・学級づくりを目指す。 1.「家の人と道徳の話をした、家庭で取り組む 高知の道徳を読んだりしている:小中60% 2.「自分にはよいところがあると思う」肯定的回答 小中全国比+4.0P 3.パソコンや携帯電話でイヤなことをされた:1.9%	

<視点1>

主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます

(3) たくましく生きる人間力を培う教育の推進

【関係性】到達目標の達成状況 A:4.3 B:3.2 C:1

対策名	取組の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部評価					令和5年度末達成目標 (後期到達目標)		
							内部評価	外部評価	R1	R2	R3		R4	R5
④ 体力向上・ 健康な生活の推進 (学校)	健康教育教材「よりよい生活習慣のために」を全小中学校で活用、基本的な生活習慣の確立(「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発・運動する楽しさと運動量を確保した教科体育の充実と体育科の授業と子どもの遊びの連携を目指した授業改善) ・体力・運動能力、生活実態等調査等を香美市全児童生徒が実施し、その結果を各校で分析し、対策を実行 ・児童生徒のニーズに応じた運動に親しむための環境整備と運動への啓発活動(生涯スポーツとの連携)	健康な生活を送るための運動習慣の確立や、基本的な生活習慣の確立が十分ではない。 1.毎日朝ごはんを食べる児童生徒の割合 小5 81.1% 中2 77.7% 2.起床時刻6時30分 小5 58.9% 中2 63.5% 3.就寝時刻 小5(22時)58.4% 中2(23時)64.9% ＜市食育推進計画(小5・中2調査)＞ 4.一週間の運動・スポーツ実施時間(420分以上) 小5男41.7%(国56.6%) 小5女31.4%(国33.0%) 中2男85.9%(国86.1%) 中2女52.2%(国62.7%) ＜全国体力調査＞	1.毎日朝ごはんを食べる児童生徒の割合 小5 85% 中2 80% 2.起床時刻6時30分 小5 60% 中2 65% 3.就寝時刻 小5(22時)60% 中2(23時)65% ＜市食育推進計画(小5・中2調査)＞ 4.一週間の運動・スポーツ実施時間(420分以上) 小5男45%(国56.6%) 小5女35%(国33.0%) 中2男86%(国86.1%) 中2女55%(国62.7%)＜全国体力調査＞	健康教育教材「よりよい生活習慣のために」を全小中学校で活用、基本的な生活習慣の確立(「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発) ・運動する楽しさと運動量を確保した教科体育の充実と体育科の授業と子どもの遊びの連携を目指した授業改善 ・体力・運動能力、生活実態等調査等を香美市全児童生徒が実施し、その結果を各校で分析し、対策を実行 ・児童生徒のニーズに応じた運動に親しむための環境整備と運動への啓発活動(生涯スポーツとの連携)	【評価 A】 ①健康教育教材「よりよい生活習慣のために」活用100%、基本的な生活習慣の確立(「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発) ②香美市学校保健委員会で「がん教育の推進」について、新たに取り組んだ。 ③運動する楽しさと運動量を確保した教科体育の充実と体育科の授業と子どもの遊びの連携を目指した授業改善 ④体力・運動能力、生活実態等調査等を香美市全児童生徒が実施・分析・検証。 ⑤児童生徒のニーズに応じた運動に親しむための環境整備と運動への啓発活動(生涯スポーツとの連携)	【評価 B】 健康な生活を送るための運動習慣の確立や、基本的な生活習慣の確立に取り組んだ。 1.毎日朝ごはんを食べる児童生徒の割合 小5 85% 中2 80% 2.起床時刻6時30分 小5 60% 中2 65% 3.就寝時刻 小5(22時)60% 中2(23時)65% ＜市食育推進計画(小5・中2調査)＞ 4.一週間の運動・スポーツ実施時間(420分以上) 小5男51.5%(国51.5%) 小5女31.9%(国30.1%) 中2男72.4%(国83.5%) 中2女50.0%(国61.7%) ＜全国体力調査＞	3	3	①「早寝・早起き・朝ごはん」を目指した生活習慣の確立	②運動する楽しさと運動量を兼ね備えた体育科の授業改善(指定校)	③体力・運動能力、生活実態等調査からの各学校での取組	④運動・スポーツに親しむための環境整備と啓発活動	②授業と遊びが連携した運動への取組	健康な生活を送るための基本的な生活習慣が確立され、運動習慣がついている。 1.毎日朝食を食べる(95%以上) 2.起床時刻6時30分 小5 70%以上 中2 60%以上 3.就寝時刻 小5(22時)60%以上 中2(23時)60%以上 4.一週間の運動・スポーツ実施時間(体育科の授業以外)420分以上 小5男56%、小5女33%、中2男86%、中2女62%
⑤ キャリア教育の推進 (学生)	・キャリア教育の視点を意識したキッズチャレンジデーとキャリアチャレンジデーの実施 ・地域の方々や協働したキャリア教育 ・総合的な学習の時間を核とした体験活動の推進 ・地域の教育資源を活用した系統的なふるさとプログラムの充実	平成25年度より3年間キャリア教育の指定を受け、キャリア教育の視点を意識した取組みを実施している。 1.「自分の住んでいる地域が好きである」(子どもの子育て長期調査) 小6 89% 中3 75% 2.「自分にはよいところがあると思いますか」(全国学調) 小6 84.7% 中3 84.9% 3.「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」(全国学調) 小6 81.8% 中3 68.5%	1.「自分の住んでいる地域が好きである」(子どもの子育て長期調査)小6 92% 中3 78%以上 2.「自分にはよいところがあると思いますか」肯定的評価(全国学調)小中ともに全校平均値以上 3.「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」(全国学調)小6 82% 中3 70%以上	・キャリア教育の視点を意識したキッズチャレンジデーとキャリアチャレンジデーの実施 ・総合的な学習の時間を核とした体験活動の推進 ・地域の教育資源を活用(中3:ふるさとアンケート)	【評価 A】 ①キャリア教育の視点を意識したキッズチャレンジデーとキャリアチャレンジデーの実施(9校)1校は台風のため中止。 ②総合的な学習の時間を推進するための研修実施(8月17日) ③地域の教育資源を活用アンケートは(3学期実施)	【評価 A】 1.「自分の住んでいる地域が好きである」(子どもの子育て長期調査)結果待ち 2.「自分にはよいところがあると思いますか」肯定的評価(全国学調)小中ともに全国平均値以上 小89.1(全国平均81.2)、中77.2(全国平均74.1) 3.「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」(全国学調)小6 82.6%(+0.6) 中3 75.2%(+5.2)	4	4	①キャリアチャレンジデー・キッズチャレンジデーの実施	②地域の方々や協働したキャリア教育	③探究的な授業づくり充実事業	④地域の教育資源を活用した系統的なふるさとプログラムの充実	総合的な学習の時間を充実させることで、地域の人やものに出会い、よさを感じることができる。また、その学習の中で、社会性の育成も育むことができる。 1.「自分の住んでいる地域が好きである」(香美市教育・子育て長期調査)小6 92% 中3 78% 2.「自分にはよいところがあると思いますか」小6・中3 87%以上 3.「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」小6 85% 中3 72%	

(1) 香美市のたからを活かしたふるさと教育の推進

行動実績・到達目標の達成状況の内部評価
A:目標(予定)を達成できた、B:目標(予定)を一部達成できなかった、C:目標(予定)をほとんど達成できなかった

内部評価
4:想定以上の成果、3:概ね想定どおりの成果、2:成果が得られたが改善が必要、1:見直しが必要

対策名	取組の概要	年度当初の現状(課題等)	具体的な到達目標(有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み(計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部評価					令和5年度末達成目標(後期到達目標)
							内部評価	外部評価	R1	R2	R3	
① 香美市ふるさとプログラムの充実 (学校)	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間を核とした体験活動の推進 香美市の8割を占める山林についての学習の推進(山の学習事業) 地域の教育資源を活用した系統的なふるさとプログラムの充実 	平成25年度よりキャリア教育の充実を進めていく中で、各学校が地域の教育資源(人・もの・こと)を活用した活動を実施している。しかし、まだまだ充実した活動にはなっていない。 1.「自分の住んでいる地域が好きである」小6 89% 中3 75%(H29市子育て長期調査) 2.「17の教育資源(育ちの指標リーフレットより)の中で、80%以上行ったことがある」中3 6施設以上(H30市ふるさとアンケート)	1.「自分の住んでいる地域が好きである」小6 92% 中3 78%以上 2.「17の教育資源(育ちの指標リーフレットより)の中で、80%以上行ったことがある」中3 6施設以上(H30市ふるさとアンケート)	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間を核とした体験活動の推進 香美市の8割を占める山林についての学習の推進(山の学習事業:全小中学校) 地域の教育資源を活用した系統的なふるさとプログラムの充実(全小学校) 	【評価 B】 ①総合的な学習の時間を核とした体験活動の実施(100%) ②香美市の8割を占める山林についての学習の実施(山の学習事業:全小中学校実施100%) ③地域の教育資源を活用した系統的なふるさとプログラムの実施(100%)	【評価 B】 1.「自分の住んでいる地域が好きである」小91.2%・中84.8%(子ども子育て長期調査) 2.「17の教育資源(育ちの指標リーフレットより)の中で、80%以上行ったことがある」中3 5施設(ふるさとアンケート)	3	3		総合的な学習の時間を充実させることで、地域の人やものに出会い、ふるさとへのよさを感じることができる。 1.「自分の住んでいる地域が好きである」小6 92% 中3 78% 2.「17の教育資源(育ちの指標リーフレットより)の中で、80%以上行ったことがある」中3 10施設以上		
② 食育推進・健康教育の充実 (学保)	<ul style="list-style-type: none"> 栄養教諭による食に関する指導の強化と充実 栄養教諭のスキルアップ支援 欠食がみられる児童生徒への支援。(自分で食事をつくることのできる力を育てる) フッ化物洗口のサービスの提供 食育ノート、食育ハンドブックを活用した授業の実施 ヘルスマイト、JA高知県女性部土佐か香美地区や地域学校 協働本部と連携した調理実習の実施 家庭と連携した生活リズムの確立 	家庭で十分に食事を摂ることができていない児童生徒がいる等、子どもの食生活をめぐる問題やお口の健康(むし歯や歯肉炎の状況等)に家庭差がある。肥満、痩身(やせ)と共に増えている。 1.朝食を毎日食べている小5 81.1% 中2 77.7%(市食育アンケート) 2.12歳(中1)永久歯一人平均むし歯数 1.03本(H28学校歯科保健調査) 3.3歳児一人平均むし歯数0.53本 3.生活リズム名人認定小学生 43.7%(生活リズム名人の取組)	健康な生活を送るために必要な食事や体力の形成のために、生活リズムや食事の重要性に気づき、実行力を持った児童生徒の育成。 1.朝食を毎日食べている小5 81.1% 中2 77.7%より向上(市食育アンケート) 2.12歳(中1)永久歯一人平均むし歯数 1.03本(H28学校歯科保健調査) 3.3歳児一人平均むし歯数0.53本 3.生活リズム名人認定小学生 43.7%以上(生活リズム名人の取組)	<ul style="list-style-type: none"> 香美市食育庁内会を通じて栄養教諭の連携支援 地域学校協働本部の協力による朝食づくりの実施 フッ化物洗口のサービスの提供 食育ノート、食育ハンドブックを活用した授業の実施 ヘルスマイト、JA高知県女性部土佐香美地区と連携した調理実習の実施 家庭と連携した生活リズムの確立 	【評価 B】 ・香美市食育庁内会にて栄養教諭より各校の進捗確認。(1回) ・地域学校協働本部の協力による朝食づくりの実施(2小・1中学校) ・フッ化物洗口のサービスの提供(全小中学校) ・食育ノート、食育ハンドブックを活用した授業の実施(全小中学校) ・ヘルスマイト(全小中学校)、JA高知県女性部土佐香美地区(全中学校)と連携した調理実習の実施 ・生活リズム名人取組校(4校)	【評価 B】 1.朝食を毎日食べている小5 85.2%(+4.1) 中2 77.1%(-0.6)(市食育アンケート) 2.12歳(中1)永久歯一人平均むし歯数 1.15本(H30学校歯科保健調査) 3.3歳児一人平均むし歯数0.73本 3.生活リズム名人認定小学生 39.9%	3	3		香美市食育推進計画に沿って、取組を充実させ、児童生徒の食に関する関心を高め、将来の健康な生活に必要な、食と健康な生活への実践力が獲得される。 1.朝食を毎日食べている小5 中2年 95.0%以上 2.12歳(中1)永久歯一人平均むし歯数 0.5本以下 3.生活リズム名人認定小学生 60%		
③ 文化財・文学の活用と推進 (生)	<ul style="list-style-type: none"> 文化財の公開活動を拡充するため、香美市内の小中学校で伝承教室を開催し、後世への伝承を行うとともに地域文化への関心を高める 短歌大会等を開催し、地域住民と小中学校等の連携による地域密着型教育の推進 	文化財の公開は、無形民俗文化財では、いざなぎ流舞神楽と太刀踊りがいずれも不定期に公開活動をしている歌人吉井勇の功績や知名度等が市民に浸透しきれていない。 1.いざなぎ:年4回公開太刀踊り:年3回公開 2.小中での伝承教室の開催 未実施 3.吉井勇記念館来場者数 1,094名	1.いざなぎ:年4回公開太刀踊り:年3回公開 2.小中学校での伝承教室の開催(1校を予定) 3.吉井勇記念館来場者数 1,100名	<ul style="list-style-type: none"> 文化財の公開活動を拡充するため、香美市内の小中学校で伝承教室を開催し、後世への伝承を行うとともに地域文化への関心を高める 短歌大会等を開催し、地域住民と小中学校等の連携による地域密着型教育の推進 	【評価 B】 ・文化財の公開活動を拡充するため、香美市内の小中学校で伝承教室を開催し、後世への伝承を行うとともに地域文化への関心を高めることができた。 ・短歌大会等を3月に開催する予定。地域住民と小中学校等の連携による地域密着型教育の推進を図る。	【評価 B】 1.いざなぎ流:年7回公開太刀踊り:年4回公開 2.小中学校での伝承教室を開催(大柄小学校)成果は物部つ子祭り(12月14日開催)で発表中学校でも伝承教室を開催(香北中学校)成果は香北中学校運動会(9月7日開催)及び香北中学校文化発表会(11月2日)で発表 3.吉井勇記念館来場者数 729名(R2.1.18時点)(令和元年度は集計途中)	3	3		香美市のたからを学校教育と生涯学習、ひいては地域活性化に繋げる。香美市の子どもたちに地域への愛着と誇りを持ってもらう。 1.文化財の公開については地域の祭や生涯学習フォーラム等の場で公開する機会を作る。年5回 2.小中での伝承教室 4校以上 3.短歌等を通じ、文学や文化に興味を持ってもらい、安定したファン層の向上を図る。来場者数 2,000人以上		

<視点2>

市民が協働し、ともに支え合い、高め合う地域社会を築きます

【関係性】到達目標の達成状況 A:4.3 B:3.2 C:1

(2) 子育て支援と親支援の推進

行動実績・到達目標の達成状況の内部評価

A:目標(予定)を達成できた、B:目標(予定)を一部達成できなかった、C:目標(予定)をほとんど達成できなかった

内部評価

4:想定以上の成果、3:概ね想定どおりの成果、2:成果が得られたが改善が必要、1:見直しが必要

対策名	取組の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況					令和5年度未達成目標 (後期到達目標)		
						内部評価	外部評価	R1	R2	R3		R4	R5
① 家庭への 専門的な支援 (保)	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援保育コーディネーターによるティーチャーズトレーニングの実施 支援ファイルの作成 保育所や保護者への支援、小学校や専門機関等との連携 家庭支援推進保育士によって特別な配慮が必要な家庭に対する支援 	特別支援保育コーディネーターを配置し保育園の職員とともに、特別な支援を必要とする子どもや厳しい環境にある子どもの保育の質の向上を図るため、必要な人材を確保し支援する体制を整える必要がある。 1.ティーチャーズトレーニングの実施(5/6園から参加)H29年度83% 2.支援ファイルの作成(必要者2名全員)H29年度100% 3.保育士を加配し家庭支援を行う。(2/6園に加配)H29年度加配33%、家庭訪問又は面談100%実施	特別支援保育コーディネーターを配置し保育園の職員とともに、特別な支援を必要とする子どもや厳しい環境にある子どもの保育の質の向上を図るため、必要な人材を確保し支援する体制を整える必要がある。 1.ティーチャーズトレーニングの実施(全6園から参加)100% 2.支援ファイルの作成(必要者全員)100% 3.保育士を加配し家庭支援を行う。(2/6園に加配)加配33%、家庭訪問又は面談(必要者全員)100%実施	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援保育コーディネーターによるティーチャーズトレーニングの実施 支援ファイルの作成 保育所や保護者への支援、小学校や専門機関等との連携 家庭支援推進保育士加配による特別な配慮が必要な家庭に対する支援 	【評価 B】 ①特別支援保育コーディネーターによるティーチャーズトレーニングの実施 ②支援ファイルの作成 ③保育所や保護者への支援、小学校や専門機関等との連携 ④家庭支援推進保育士加配による特別な配慮が必要な家庭に対する支援	【評価 B】 1.ティーチャーズトレーニングの実施(6園中5園から参加)83% 2.支援ファイルの作成今年度必要者なし 3.特別支援保育コーディネーターや園職員による家庭支援や関係機関との連携を行う。(2/6園に加配)加配33%、 ・家庭訪問又は面談必要者なし(面談までは必要がない見守り家庭についての記録や声掛けは行っている。)	3	3					特別な支援を必要とする子どもや厳しい環境にある子どもの保育の質の向上を図ることができる 1.ティーチャーズトレーニングの実施(全6園参加)100% 2.支援ファイルの作成(必要者全員)100% 3.保育士を加配し家庭支援を行う。(3/6園に加配)50% 家庭訪問又は面談100%実施
② 地域子育て支援 の充実 (保)	<ul style="list-style-type: none"> 親子の交流の場の提供(子育てひろばの開催) 子育てに関する相談・援助 地域の子育て関連情報の提供 子育てに関する講習会の開催(月1回) 子育てサークル等の地域支援、地域とのつながりを支援・促進 高校生の子育てサポート体験事業拡大 ペアレントトレーニングの試行 訪問支援 香美市在住者の就学前児の子育てセンターでの保育 	地域のつながりが希薄化し、また少子化、核家族化が進む中で、子育てが「個育て」、「孤育て」になっており、身近に育児支援者がおらず、保護者が子育てに不安や育児力の弱さを抱えている場合があり、不安やニーズが大きい。 1.子育てひろば延べ親子利用者数/年 7,918人/年 2.相談、援助件数 472人/年 3.子育てサークル等関係機関との連携件数 34件/年 4.一時預かりお断り件数 159件/年	地域のつながりが希薄化し、また少子化、核家族化が進む中で、子育てが「個育て」、「孤育て」になっており、身近に育児支援者がおらず、保護者が子育てに不安や育児力の弱さを抱えている場合があり、不安やニーズが大きい。 1.子育てひろば延べ親子利用者数/年 8000人/年 2.相談、援助件数 480人/年 3.子育てサークル等関係機関との連携件数 34件/年 4.一時預かりお断り件数 50件/年	<ul style="list-style-type: none"> 親子の交流の場の提供(子育てひろばの開催) 子育てに関する相談・援助 地域の子育て関連情報の提供 子育てに関する講習会の開催(月1回) 子育てサークル等の地域支援、地域とのつながりを支援・促進 高校生の子育てサポート体験事業拡大 ペアレントトレーニングの試行 訪問支援 香美市在住者の就学前児の子育てセンターでの保育 	【評価 B】 ①子育てセンターなかよしひろばで、月～金の9時から14時に、子育てひろばを実施 ②両センターで、随時相談と月1回の育児相談会を実施 ③地域の子育て関連情報は掲示物やチラシの配布で提供 ④両センターで、子育てに関する講習会を月1回以上実施 ⑤香美市子育てサークル交流会の実施、子育てサークルとの情報交換会へ参加、民生委員やヘルスメイトに事業への協力を依頼 ⑥山田高校の担当教員と体験事業拡大について話し合いによる検討を行う ⑦3回1コース実施 ⑧子育てセンターを利用したことがない未就園の1歳児がいる家庭に訪問を実施 ⑨両センターで、一時預かり事業を実施	【評価 B】 1.子育てひろば延べ親子利用者数 4829人 2.相談、援助件数 330件 3.子育てサークル等関係機関との連携件数 28件 4.一時預かりお断り件数 10件 (1～4は12月末現在の数値)	2	3					子育て支援センターの取組を強化することによって、保護者の子育てに対する不安および育児負担を軽減し、地域で親子を育みながら、子どもの健やかな育ちを促す。 1.子育てひろば延べ親子利用者数/年 8,000人/年 以上 2.相談、援助件数 480人/年 以上 3.子育てサークル等関係機関との連携件数 35件/年 以上 4.一時預かりお断り件数 50件/年 以下
③ ファミリー・サポート・センターの活性化 (保)	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動や会員の募集 登録その他の会員組織業務を管理、相互援助活動の調整等を実施 会員に対して相互援助に必要な知識を付与する講習会の開催 会員の交流を深め、情報交換の場を提供するための交流会の開催 子育て支援関連施設・事業との連絡調整 	H30年度から開始のためファミリー・サポート・センター事業が周知されていない。援助会員数不足で広報してもマッチングできない状況にある。また、育児の助けとして、安心して相互援助活動を活用してもらう必要がある。 1.広報掲載数2件、チラシ配布数4300枚/年、ファミサポ通信1000枚 2.HPカウント数 500件/年 3.相互援助活動件数 120件/年	H30年8月開始のため事業が周知されていない。援助会員数不足でマッチングできない状況にある。また、育児の助けとして、安心して相互援助活動を活用してもらう必要がある。 1.広報掲載数2件、チラシ配布数1500枚/年、ファミサポ通信2400枚 2.HPカウント数 2400件/年 3.相互援助活動件数 240件/年	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動や会員の募集 登録その他の会員組織業務を管理、相互援助活動の調整等を実施 会員に対して相互援助に必要な知識を付与する講習会の開催 会員の交流を深め、情報交換の場を提供するための交流会の開催 子育て支援関連施設・事業との連絡調整 	【評価 A】 ①広報活動や会員の募集を実施 ②登録その他の会員組織業務を管理、相互援助活動の調整等を実施 ③会員に対して相互援助に必要な知識を付与する講習会を年2回実施。香美市で受講できない方に広域受講を可能とした。 ④会員交流を目的に、月1回ファミサポひろばを実施 ⑤子育て支援関連施設・事業との連絡調整の実施	【評価 B】 1.広報掲載数2件、チラシ配布数 1600枚、ファミサポ通信1300枚 2.HPカウント数 3888件 3.相互援助活動件数 352件 (1～3は、12月末現在の数値)	3	3					多様な子育て世代の生活形態に対応でき、安心安全に子育てをサポートする。 1.広報掲載数2～3件/年、チラシ配布数 1500枚、ファミサポ通信4回2400枚 2.HPカウント数2500件/年 3.相互援助活動件数 300件/年

(2) 子育て支援と親支援の推進		行動実績・到達目標の達成状況の内部評価				内部評価					令和5年度末達成目標 (後期到達目標)		
対策名	取組の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部 評価	外部 評価	R1	R2		R3	R4
④ 子どもの 放課後対策の充 実 (学校)	<ul style="list-style-type: none"> 子ども教室を地域コーディネーター(教育経験者)を中心に実施 長期休暇や土日等休暇を利用した、企画の実施 児童クラブ支援員の資質・専門性の向上 特別な教育的支援の必要な子どもへの支援体制 環境の整備と充実 小学校と児童クラブとの連携・情報の共有 	未来を担う子どもたちの成長を支えるには、地域と学校が連携・協働し社会総掛かりで教育を行うことが必要であり、全ての子どもたちが放課後等安心・安全に過ごし、多様な体験・交流・学習活動を行うことができる環境づくりが課題 1.子ども教室については、現在2校で実施 2.8児童クラブのうち有資格者が2名以上いる児童クラブが現在6児童クラブ 3.8児童クラブのうち2児童クラブの建設が完了 4.学校と児童クラブの連携ができていない	未来を担う子どもたちの成長を支えるには、地域と学校が連携・協働し社会総掛かりで教育を行うことが必要であり、全ての子どもたちが放課後等安心・安全に過ごし、多様な体験・交流・学習活動を行うことができる環境づくりが課題 1.子ども教室については、現在の2校以外での実施検討 2.8児童クラブ全てに有資格者が2名以上 3.8児童クラブのうち5児童クラブの建設が完了 4.学校と児童クラブの連携に向けた検討準備	<ul style="list-style-type: none"> 子ども教室を地域コーディネーター(教育経験者)を中心に実施 長期休暇や土日等休暇を利用した企画の実施 児童クラブ支援員の資質・専門性の向上 特別な教育的支援の必要な子どもへの支援体制 環境の整備と充実 小学校と児童クラブとの連携・情報の共有 	【評価 B】 ・子ども教室を地域コーディネーター(教育経験者)を中心に実施(舟入・片地) ・長期休暇や土日等休暇を利用した企画の実施(8クラブ中8) ・児童クラブ支援員の資質・専門性の向上(R1認定研修参加者5人) ・特別な教育的支援の必要な子どもへの支援体制 ・環境の整備と充実 ・小学校と児童クラブとの連携・情報の共有	【評価 B】 未来を担う子どもたちの成長を支えるには、地域と学校が連携・協働し社会総掛かりで教育を行うことが必要であり、全ての子どもたちが放課後等安心・安全に過ごし、多様な体験・交流・学習活動を行うことができる環境づくりが課題 1.子ども教室については、現在の2校以外での実施検討 2.8児童クラブ全てに有資格者が2名以上(みなし支援員含む、全児童クラブで達成) 3.8児童クラブのうち3児童クラブの建設完了(R1は片地小学校児童クラブ) 4.学校と児童クラブの連携に向けた検討準備	2	2		地域と学校が連携・協働し、幅広い地域住民や企業・団体等の参画により、子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動を推進する。 また、取組を通じ、子どもたちの社会性・自主性・創造性等の豊かな人間性を育む。 1.子ども教室については、全小学校(7校)実施 2.全児童クラブの支援員の有資格者2名以上 3.建替え未実施の6児童クラブの建設を完了。 4.学校と児童クラブの連携(共有の場の設置)がすべての小学校区でできている。			

<視点2>

市民が協働し、ともに支え合い、高め合う地域社会を築きます

【関係性】到達目標の達成状況 A:4.3 B:3.2 C:1

(3) 市民協働で地域の教育力を高める取組の推進

行動実績・到達目標の達成状況の内部評価
A:目標(予定)を達成できた、B:目標(予定)を一部達成できなかった、C:目標(予定)をほとんど達成できなかった

内部評価
4:想定以上の成果、3:概ね想定どおりの成果、2:成果が得られたが改善が必要、1:見直しが必要

対策名	取組の概要	年度当初の現状(課題等)	具体的な到達目標(有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み(計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部評価					令和5年度末達成目標(後期到達目標)		
							内部評価	外部評価	R1	R2	R3		R4	R5
① コミュニティ・スクール・地域学校協働本部の活性化 (学校)	・学校運営協議会の充実・地域学校協働本部の活性化 ・学校・家庭・地域が協働した地域活動の充実(放課後児童クラブを含む)	現在、学校運営協議会設置校は8校で、残りの2校についてもH31年度設置に向けて、協議を行っている。しかし、まだまだ学校・家庭・地域の連携が不十分で、市民や保護者への認知度が低いという現状がある。 1.市民に聞いたCS認知度 17.4% 2.保護者に聞いたCS認知度 33.2% (よってたかってアンケート) 3.各学校の地域学校協働本部の活動のべ日数 207.6日/校(市調査)	・各学校運営協議会で、定期的な会の実施(年4回程度) ・保護者に聞いたCS認知度 35%以上 (よってたかってアンケート) 3.各学校の地域学校協働本部の活動のべ日数 210日/校(市調査)以上	・各学校で計画的な学校運営協議会の実施。 ・地域学校協働本部の総会を開催する。(4/10校)	【評価 B】 ①各学校で計画的な学校運営協議会の実施。(100%) ②地域学校協働本部の総会を開催。(5/10校)	【評価 B】 1.各学校運営協議会で、定期的な会の実施。(年4~5回程度) 2.保護者に聞いたCS認知度 (よってたかってアンケート)未実施 3.各学校の地域学校協働本部の活動のべ210日以上(3校)	3	3						すべての学校に学校運営協議会が設置され、コミュニティ・スクールが進むことにより、地域と協働した学校・地域づくりができる。 1.市民のCSに対する認知度 50% 2.保護者のCSに対する認知度 70% 3.各学校の地域学校協働本部の活動のべ日数 250日/校
② 防災教育の推進 (学校)	・高知県安全教育プログラムを活用した防災学習と避難訓練の継続的実施 ・保護者や地域を交えた避難訓練・防災学習の実施 ・地域学校協働本部と連携した防災訓練の実施 ・自助・防災に関するアンケートの実施 ・危機管理マニュアルの見直し(組織として連携した)	各学校で高知県安全教育プログラムに基づく防災学習と避難訓練を実施。学校内における火災・地震等の避難行動は身につけてきたが、教員がいないときの避難行動等、地域や家庭を巻き込んだ防災教育の充実と防災・自助に関する意識の高まりが課題。 1.防災・減災の知識の確立(防災学習実施:年間5時間以上) 2.危険回避・避難できる力の育成(避難訓練:年間3回以上) 3.地域・保護者を交えた防災訓練実施(3/10校実施) <学校安全取組アンケート(県)>	学校内における火災・地震等の避難行動は身につけてきたが、教員がいないときの避難行動等、地域や家庭を巻き込んだ防災教育の充実と防災・自助に関する意識の高まりが課題。 1.防災・減災の知識の確立(防災学習実施:年間5時間以上) 2.危険回避・避難できる力の育成(避難訓練:年間3回以上) 3.地域・保護者を交えた防災訓練実施 <学校安全取組アンケート(県)>	・高知県安全教育プログラムを活用した防災学習と避難訓練の継続的実施 ・保護者や地域を交えた避難訓練・防災学習の実施 ・地域学校協働本部と連携した防災訓練の実施 ・自助・防災に関するアンケートの実施 ・危機管理マニュアルの見直し(組織として連携した)	【評価 B】 ①高知県安全教育プログラムを活用した防災学習と避難訓練の継続的実施 ②③地域の防災組織と合同で防災訓練の実施(2校) ④自助・防災に関するアンケートの実施 ⑤危機管理マニュアルの見直し(組織として連携した)	【評価 B】 1.防災・減災の知識の確立(防災学習実施:年間5時間以上) 2.危険回避・避難できる力の育成(避難訓練:年間3回以上) 3.地域・保護者を交えた防災訓練実施(3/10校実施)(聞き取り)	3	3						防災・減災の知識を確立し、危険回避や避難行動ができる力を育成するとともに、家庭や地域の中で自助行動や危険回避行動ができる力の確立 1.防災・減災の知識の確立 自助・防災に関するアンケート「地震が起きた時、自分で判断して揺れから身を守ることができますか」「一人で登下校している時、地震が起きたら、安全な場所に避難することができますか」「両問とも「できる」と回答した割合 80% 2.地域や家庭の中でも危険回避・避難行動ができる力の育成(避難訓練:年間3回以上、うち地域や保護者を交えた避難訓練年間1回以上) 3.地域学校協働本部と連携した防災訓練、学習の実施 10/10校
③ 地域等との連携による子どもの健全育成活動 (育)	・異年齢、異世代交流、地域の見守り、土佐山田まつりや地域交流夏休みラジオ体操の実施 ・子ども会活動の内容検討 ・ピットリマソン大会の開催 ・補導委員や香美市子ども見守り活動連絡協議会(やまびこ会)と協力した見守り活動の実施 ・補導状況による検討	子ども会加入者数が減少傾向で、活動が衰退している地域子ども会がある。また、育成者や指導者が不足してきている。子ども会活動の状況 1.地域行事 のべ168回 2.土佐山田まつり参加者数 172人 3.やまびこ会会員数 88人	子ども会の新規加入者を募り、地域子ども会活動の活性化を推進する。育成者や指導者を育成・発掘する。香美市子ども見守り活動連絡協議会(やまびこ会)活動の充実を図る。子ども会活動の状況 1.地域行事 のべ200回 2.土佐山田まつり参加者数 180人 3.やまびこ会会員数 90人	・子ども会活動 地域子ども会行事の支援 ・土佐山田まつりへの参加、ピットリマソン大会開催 ・やまびこ会活動の支援 定期巡回・特別巡回の実施	【評価 B】 ①子ども会活動 ・地域子ども会行事の支援 ・土佐山田まつりへの参加 ・ピットリマソン大会開催 ②やまびこ会活動の支援 ③定期巡回・特別巡回の実施	【評価 B】 ①子ども会活動 ・地域子ども会行事の支援(安全共済会加入者848人) ・土佐山田まつりへの参加者187人 ・ピットリマソン大会参加申込者82人 ・やまびこ会活動の支援 達成評価 B 総会参加者16人、会員数82人 定期巡回・特別巡回の実施	3	3						子ども会連合会活動を通して、地域子ども会活動を活性化し、地域の実情に応じた活動内容の充実につなげていく。 地域で子供を見守る関係機関のネットワークによる安全、安心のまちづくりがすすむ。 子ども会活動の状況 1.地域行事 のべ200回 2.土佐山田まつり参加者数 200人 3.やまびこ会会員数 100人

<視点3>

夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します

(1) 次世代を見通した教育の環境整備と実践

【関係性】到達目標の達成状況 A:4.3 B:3.2 C:1

対策名		取組の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部評価	外部評価	R1	R2	R3	R4	R5	令和5年度末達成目標 (後期到達目標)		
①	国際バカロレア教育の研究 (学保)	<大宮小学校> ・組織的な研究体制の構築 ・IB教育の教育課程の研究 ・研修の充実 ・IB校及び候補校との連携・交流(オーストラリア・アデレードIB認定校 イマニュエル・プライマリースクール、候補校 高知国際中学校) ・IB教育のための予算確保(年会費、環境整備等) <香北中学校> IB教育の研究のスタート(H31~) <大宮小学校・美良布保育園> 国際バカロレアを核とした保小連携に関する研究	大宮小学校でIB認定を目指し、視察研修及び校内研修を実施。また、H31年4月に認定候補校になるため、H30年9月に申請を完了した。今後、組織や教育課程の見直しに着手する。香北中学校については、現時点では具体的な取組は行っていない。 大宮小学校・香北中学校の学力状況 1.「H30全国学調」(全国との差) 大宮小 国 +7.8p 算 +9.5p 香北中 国 +6.9p 数 +5.5p 2.「H30標準学力調査」(全国との差) 大宮小 国・算 2年~5年 -0.1p~+9.0p 香北中 国・算 1年~2年 -5.8p~+1.3p 3.国際バカロレアを核とした保小中の交流(0回/年)	<大宮小学校> ①IB認定校に向けた組織が構築される。 ②IBプログラムの枠組みに基づいた学習指導案の作成及び授業実践が行われる。 ③IB校の交流の充実が図られる。(オーストラリア・イマニュエルプライマリースクール) <香北中学校> ①IB候補校申請に向けた準備が整う ②研修会が充実し、教職員のIB教育への理解が深まる。 ③IBプログラムの枠組みに基づいた学習指導案の作成及び授業実践が行われる ④高知国際中学校との連携が強化される	<大宮小学校> ①IB認定校に向けた組織の構築 学校長とコーディネーターを軸とした組織づくり ②研修会の充実 ・講師招聘による校内研修会 ・各担当による定期的な研修会 ・IB校への視察研修(聖ヨゼフ学園小学校) ③IB校交流会の実施 オーストラリア・イマニュエル・プライマリースクールの交流担当者との連携を図り、交流の充実を図る。 <香北中学校> ①IB候補校申請の提出書類の作成 ②③④ 研修会の実施 ・講師招聘による校内研修会 ・高知国際中の研修会への参加 ・高知国際中の授業参観 ・高知国際中の教科担当同士の教科会の実施	【評価 B】 <大宮小学校> ①IB認定校に向けた組織の構築 学校長とコーディネーターを軸とした組織ができた。 ②研修会の充実 ・講師招聘による校内研修会(7・10月実施) ・定期的な研修会(毎週1回実施) ・視察研修(7月訪問) ・香北中との合同研修会(8月実施) ③イマニュエルと大宮小の両校児童の中から友好大使を選出し、交流の充実を図ることができた。 <香北中学校> ①作成中(R2.4に申請予定) ②③④ 研修会の実施 ・講師招聘による研修会(年3回実施) ・国際中の研修会への参加(7月8月参加) ・国際中授業参観(各教科の公開授業に合わせて参加) ・国際中との教科会は、授業参観に合わせて実施。	【評価 B】 <大宮小学校> 1. IB認定校に向けた組織ができた。 2. IBプログラムの枠組みに基づいた学習指導案を作成し、授業を行なうことができた。 3. 児童の中から、友好大使を選出できたことで、継続的に交流ができる土台ができ、交流の充実につながった。 <香北中学校> 1. IB候補校申請に向けた準備が整いつつある。 2. 教職員が積極的に研修に参加し、またIBの授業に挑戦することで理解が深まった。 3. Bプログラムの枠組みに基づいた学習指導案の作成をし、授業を行なうことができた。 4. 高知国際中学校の研修への参加や参観授業を行なうことで、連携が深まった。	3	3	①IB候補校(大宮小)	②IB認定校としての成果発信(大宮小)	③IB認定校との交流充実(大宮小)	④IB研究(香北中)	④IB候補校(香北中)	⑤IB認定校としての成果発信(香北中学校)	⑥保小中交流推進	大宮小学校及び香北中学校が、IB認定校となる。特に、大宮小学校においては、IB教育のさらなる充実を目指すとともに、市内及び県内への発信を積極的に行う。 1.大宮小学校・香北中学校の学力状況 「全国学調」全国との差 +5.0p以上 「標準学力調査」(全国との差) 大宮小 国・算 +10.0p以上 香北中 国・算 +5.0p以上 2.国際バカロレアを核とした保小中の交流が進む。(2回/年) 3.小学校、中学校がIB認定校となる。
②	外国語(英語)教育の推進 (学保)	(1)授業改善に向けた取組 ・先進校視察 ・市内保育園、小学校、中学校へのALT配置 ・GTECによる学力実態把握(中学2年生) ・香美市版CAN-DOリスト(到達目標)の作成・検証 ・授業改善を目指した研修会の充実 ・小中外国語担当者会の実施 ・小小連携、小中連携の充実 (2)国際交流の充実 ・姉妹校交流(オーストラリア・アデレード) ・各校での国際交流会の実施 ・イングリッシュデイキャンプの実施 小中学生対象(8月)	小学校の外国語教育が充実してきた一方で、それに伴う小中連携が必須であり、小中9年間の見通しと、新学習指導要領の趣旨に基づいた授業改善に向けた取組が必要である。 <H30外国語意識調査> 1.英語で自分のことや意見を発表することが楽しい。 72.1%(H29+2.4p)(小高学年) 2.自分の考えなどを英語で話することができる。(H30年度調査なし) (中1) 3.学校全体での組織的な取組・教員の協力体制はできている。 94.7%(H29 0.6p)(小教) 4.小中の系統的なカリキュラムの作成ができている。 57.9%(H29 -5.0p)(小教) 5.英検3級程度の力を持っている中3生 45.5%(英研IBA結果)	小中連携が充実し、各学年の到達目標に沿った授業が展開される <外国語意識調査> 1.英語で自分のことや意見を発表することが楽しい。75%(小高学年) 2.自分から積極的に、誰にでも話しかけることができている。(中1) ※H31より 3.学校全体での組織的な取組・教員の協力体制はできている。100%(小教) 4.小中の系統的なカリキュラムの作成ができている。70% 5.英検3級程度の力を持っている中3生 50%	①教職員の資質力向上 (1)英語調査の実施及び分析・授業改善 ・GTEC(4技能調査 対象:小6、中2)、英検IBA(対象:中3) (2)英語推進委員会の開催 (3)講師招聘による公開授業研究会及び校内研修会(各学年年間2回程度実施) (4)外国語教育研修会(7月) (5)先進校視察 (6)到達目標の作成 ②児童生徒の興味関心を高めるための取組 (1)イングリッシュデイキャンプの実施(8月) (2)国際交流会及び小小・小中交流会の実施	【評価 B】 (1)英語調査(5月2月)結果をもとに授業改善を行なった。 ・GTEC(小12月、中11月実施)、英検IBA(11月実施) (2)年間5回実施 (3)全校で実施 (4)7月実施 (5)11月2月実施 (6)現在、作成中(年度内に完成予定) ②(1)8月に実施(参加者:44名) (2)21回実施	【評価 B】 小中の到達目標は各学区ごとに3月末に完成する予定であった。 <外国語意識調査> 1.英語で自分のことや意見を発表することが楽しい。()%(2月中旬実施予定) 2.自分から積極的に、誰にでも話しかけることができている。(中1) ()%(2月中旬実施予定) 3.学校全体での組織的な取組・教員の協力体制はできている。(小教)()%(2月中旬実施予定) 4.小中の系統的なカリキュラムの作成ができている。(3月中完成予定) 5.英検3級程度の力を持っている中3生34.9%(英研IBA結果)	3	3	①授業改善推進事業	②小中連携の強化と学力向上事業	③国際交流事業	①実施設計・用地取得等	②建設工事	③新図書館の組織・運営の研究(蔵書計画×研修による副読本養成講座(取消))	④新図書館の運営	小中連携が充実し、各学年の到達目標に沿った授業が展開される。 <外国語意識調査> 1.英語で自分のことや意見を発表することが楽しい。75%(小高学年) 2.自分の考えなどを英語で話することができる。70%(中1) 3.学校全体での組織的な取組・教員の協力体制はできている。100%(小教) 4.小中の系統的なカリキュラムの作成ができている。100% 5.英検3級程度の力を持っている中3生60%
③	新図書館の活性化 (生)	資料の収集・保存・提供を行う情報拠点であり、調査研究など利用者の様々な要求に対し、充実した蔵書を作り上げ、サービスの提供をしていく。 1.新図書館開館に向けてハード面・ソフト面共に準備を進める。 2.豊富な蔵書計画をたてる。 3.多様なレファレンスに対応できるよう、司書の資質力向上に努める。	現在の施設は狭小であることに加え、着しい老朽化のため、十分な機能を果たせていない。 (課題) ・新図書館の施設及び運営内容の検討 ・施設用地の確保 ・設計図書の作成 ・建設工事の実施 ・蔵書計画 ・蔵書が古く、蔵書数が少ないため蔵書計画に基づいた書架整備が必要【開架冊数約36,000冊】(平成31年3月31日現在) ・熟知した司書が少ないため、司書の育成および資質力向上が必要	生涯にわたり学び続けることのできる読書・情報環境を提供する図書館 ・新図書館建設及び運営の充実 ・施設用地の確保 ・設計図書の作成 ・建設工事の実施 ・蔵書計画 開架冊数52,000冊(開架書架の80%) ・司書研修への参加(参加回数一人当たり年間5回)	資料の収集・保存・提供を行う情報拠点であり、調査研究など利用者の様々な要求に対し、充実した蔵書を作り上げ、サービスの提供をしていく。 1.新図書館開館に向けてハード面・ソフト面共に準備を進める。 2.豊富な蔵書計画をたてる 3.多様なレファレンスに対応できるよう、司書の資質力向上に努めるべく、研修に参加できた。	【評価 B】 ①新図書館開館に向けてハード面・ソフト面共に準備を進めることができた。 ②現図書館の蔵書構成を確認し、資料整理を行った。それに基づき蔵書計画をたてることができた。 ③多様なレファレンスに対応できるよう、司書の資質力向上に努めるべく、研修に参加できた。	【評価 B】 新図書館の建設及び運営の充実を図るため、以下のような取組を行った。 【ハード面】 施設用地の確保及び設計図書の作成ができた。 【ソフト面】 蔵書計画を作成した。また、司書の資質力向上を図るため積極的に研修へ参加した。(司書一人当たりの研修参加回数)4回	3	3	①実施設計・用地取得等	②建設工事	③新図書館の組織・運営の研究(蔵書計画×研修による副読本養成講座(取消))	④新図書館の運営	図書館環境を整備することで、情報発信や交流の場として多くの市民に図書館を利用していただく。 図書館を通じて市民が学習意欲を高め、人づくりやまちづくり大きく寄与できるよう課題解決支援をしていく。 1.新図書館開館(令和3年度冬) 2.開架冊数52,000冊(開架書架の80%) 3.研修を通じて熟知した司書を育成する(参加回数一人当たり年間5回)			

<視点3>

夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します

【関係性】到達目標の達成状況 A:4.3 B:3.2 C:1

(1) 次世代を見通した教育の環境整備と実践

		行動実績・到達目標の達成状況の内部評価				内部評価								
		A:目標(予定)を達成できた、B:目標(予定)を一部達成できなかった、C:目標(予定)をほとんど達成できなかった				4:想定以上の成果、3:概ね想定どおりの成果、2:成果が得られたが改善が必要、1:見直しが必要								
対策名	取組の概要	年度当初の現状(課題等)	具体的な到達目標(有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み(計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部評価	外部評価	R1	R2	R3	R4	R5	令和5年度末達成目標(後期到達目標)
④ ICT・IoT教育、情報モラル・リテラシー教育の推進 (学校)	<ul style="list-style-type: none"> ・工科大学サークル等の小学校出前講座でのモラル学習の実施。 ・教職員の情報機器を使った資質・専門性の向上。(タブレットの使用) ・プログラミング教育の推進。 ・ICTやIoTの研究指定。(タブレット、プログラミング) ・教員の情報リテラシーの推進。 ・ICT支援員の配置。(学校ホームページの更新支援を含む) 	<p>教員の授業でのICT機器の活用は、多くなってきているが、授業での効果的な活用場面が不十分である。また、肖像権や知的所有権なども踏まえた教育ができていない。</p> <p>1.児童生徒はパソコンやタブレットを使って調べものをする」62.7%(よってアンケート)</p> <p>2.情報モラルが指導できる教員「強い肯定 27.6%(国情報調査)</p> <p>3.教職員は「興味関心を高め、課題を明確につかませ、学習内容を的確にまとめるために機器の使用ができる」教員の強い肯定的割合 36.4%(国情報調査)</p> <p>4.小学校のプログラミング教育の実施 2校(市調査)</p>	<p>教員の授業でのICT機器の活用は、多くなってきているが、授業での効果的な活用場面が不十分である。また、肖像権や知的所有権なども踏まえた教育が進んでいない。</p> <p>1.児童生徒はパソコンやタブレットを使って「調べものをする」80%(コラボアンケート)</p> <p>2.情報モラルが指導できる教員強い肯定 30%(国情報調査)</p> <p>3.教職員は「興味・関心を高める機器の使用ができる:強い肯定 45%(国情報調査)</p> <p>4.小学校のプログラミング教育の実施 7校(市調査)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・工科大学サークル・ICT支援員等の小学校出前講座でのモラル学習の実施。 ・教職員の情報機器を使った資質・専門性の向上。(タブレットの使用) ・プログラミング教育の推進。(ロボットの貸出) ・ICTやIoTの研究指定。(タブレット、プログラミング) ・教員の情報リテラシーの推進。 ・ICT支援員の配置。(学校ホームページの更新支援を含む) 	<p>【評価 B】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の使用は、全体的にお増加しており、教職員の情報機器を使った資質・専門性の向上は図られつつあり、さらなる研修(プログラミング等)が必要である。 ・プログラミング教育の推進。(全小中学校にポットの配置、小学校におけるプログラミング教育の実施100%) ・市の指定事業として物部地区をICTやIoTの研究指定。(市教研と連携しプログラミングの授業実施) ・教員の情報リテラシーの推進。 ・ICT支援員の配置による情報環境の整備及び学校ホームページの更新支援、プログラミング教育実施の際の支援) 	<p>【評価 B】</p> <p>授業中におけるICT機器の活用は、多くなってきており、今後授業での効果的な活用場面や具体的なプログラミング教育の充実が必要である。また、ICT活用に合わせた情報リテラシー教育の実施が必要である。</p> <p>1.児童生徒はパソコンやタブレットを使って「調べものをする」80%(コラボアンケート)</p> <p>2.情報モラルが指導できる教員強い肯定 小32%中22%(国情報調査)</p> <p>3.教職員は「興味・関心を高める機器の使用ができる:強い肯定 小38%中33%(国情報調査)</p> <p>4.小学校のプログラミング教育の実施 7校(市調査)</p>	2	3	<p>①情報モラル教育の充実 → ②情報モラル教育の定着</p> <p>③ICT教育の研究指定と市内への普及 → ④IoT教育の研究指定</p> <p>⑤プログラミング教育の準備 → ⑥プログラミング教育の施行・実施</p>	<p>授業で児童生徒がICTを活用した効果的な学習ができている。また、知的所有権・情報モラル等を十分理解した情報発信ができている。</p> <p>1.児童生徒はパソコンやタブレットを使って「調べものをする」80%</p> <p>2.情報モラルが指導できる教員強い肯定 60%</p> <p>3.教職員は「興味関心を高める機器の使用ができる:強い肯定 60%(国情報調査)</p> <p>4.小学校のプログラミング学習の実施 10校(市調査)</p>				
⑤ 小中学校の働き方改革の推進 (学生)	<ul style="list-style-type: none"> ・業務標準化、効率化、組織対応による取組(校務支援システムの導入、勤怠管理を含む) ・運動部活動の社会スポーツへの接続研究 ・校長による学校マネジメントの取組 ・市教委からの業務改善の手立て(閉庁日、退勤時間等の設定) ・外部の協力を得ること(CSや地域学校協働本部)による取組 ・予算措置による負担軽減(設備、人的配置) 	<p>働き方改革推進法を受け、学校の業務は肥大化し、勤務実態に大きな課題がある。教員の意識改革とともに、外部の方の協力も得ながら、役割を明確にする必要がある。</p> <p>1.正規の勤務時間を意識して仕事をしている教職員 2.8(5件法)あてはまる=5(教職員意識調査)</p> <p>2.日々の業務の中で忙しいと感じているか4.7(5件法)(教職員意識調査)</p> <p>3.超過勤務80時間以上の教職員 18.7%(市調査)</p>	<p>働き方改革推進法を受け、学校の業務は肥大化し、勤務実態に大きな課題がある。教員の意識改革とともに、外部の方の協力も得ながら、役割を明確にする必要がある。</p> <p>1.正規の勤務時間を意識して仕事をしている教職員2.8(5件法)あてはまる=5(教職員意識調査)</p> <p>2.日々の業務の中で忙しいと感じているか4.3(5件法)(教職員意識調査)</p> <p>3.超過勤務80時間以上の教職員 10%(市調査)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域スポーツ活動の研究(部活動)の立ち上げ ・業務標準化、効率化、組織対応による取組(校務支援システムの導入、勤怠管理を含む) ・運動部活動の社会スポーツへの接続研究 ・校長による学校マネジメントの取組 ・市教委からの業務改善の手立て(閉庁日、退勤時間等の設定) ・外部の協力を得ること(CSや地域学校協働本部)による取組 ・予算措置による負担軽減(設備、人的配置) 	<p>【評価 B】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域スポーツ活動の研究(部活動)の立ち上げに向けて状況収集の段階である。 ・業務標準化、効率化、組織対応による取組を行うため校務支援システムの導入(勤怠管理を含む)による実態の把握は、2学期から全校で実施。 ・運動部活動の社会スポーツへの接続研究は、教職員の働き方改革と合わせて議論を始める予定。 ・校長による学校マネジメント力の向上に向けて学校経営計画等を使い具体化を図った。 ・夏季休業中の全市統一学校閉庁日の実施(8日間)、各校による退勤時間等の設定 ・外部(CSや地域学校協働本部)の学校行事、授業参加等への協力を得ることによる学校の負担軽減への取組 ・学校事務補助員の配置(山田小・鏡野中) ・香美市教職員の働き方検討協議会の開催 	<p>【評価 B】</p> <p>教職員の働き方改革に向けて、検討協議会の設置及び話し合いを始めることはできたが、具体的な市として取り組みには至っていない。検討協議会の意見を参考にしながら、市としての具体的な取組と教職員の意識改革を進める必要がある。また、CSの全市設置によるさらなる協力、役割の明確を進める必要がある。</p> <p>1.正規の勤務時間を意識して仕事をしている教職員2.7(5件法)あてはまる=5(教職員意識調査)</p> <p>2.日々の業務の中で忙しいと感じているか4.7(5件法)(教職員意識調査)</p> <p>3.超過勤務80時間以上の教職員 21%(R1年9~12月市調査)</p>	2	2	<p>①実証実験 → 校務支援システムの導入と活用 → 支援システムの定着</p> <p>②地域スポーツ活動の研究(中学校運動部活動) → 地域スポーツ活動の施行 → 充実定着</p> <p>③管理職のマネジメント</p> <p>④予算措置による負担軽減</p>	<p>学校の業務が精選され、子どもたちと向き合う時間の確保が改善される。教員の意識改革も図られ、外部の方の協力も得ながら、チーム学校として「よってたかって教育」が推進される。</p> <p>1.正規の勤務時間を意識して仕事をしている教職員。4.0(5件法)あてはまる=5(5件法)</p> <p>2.日々の業務の中で忙しいと感じているか4.0(5件法)</p> <p>3.超過勤務80時間以上の教職員 5%</p>				

<視点3>

夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します

【関係性】到達目標の達成状況 A:4.3 B:3.2 C:1

(2) 高知工科大学との連携

対策名	取組の概要	年度当初の現状 (課題等)	行動実績・到達目標の達成状況の内部評価			内部評価					令和5年度末達成目標 (後期到達目標)		
			具体的な到達目標 (有べき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部評価	外部評価	R1	R2		R3	R4
① 山田高等学校・高知工科大学学生による小中学校との交流・活動の推進 (学校)	香美市内の小中学生が山田高校へ足を踏み入れる場の設定 ・香美市理科クラブ ・香美市デイキャンプ ・山田高校生、高知工科大学の小中学校への関わる取組(放課後子ども教室、読み聞かせ、授業支援等) ・工科大学のサークルを活用した活動の充実 ・キャリアチャレンジデイやキッズチャレンジデイでの山田高生徒や工科大学生の力を借りた活動	部にある高校であるが、その施設に行ったことのない小中学生が多い。また、工科大学とは多くの交流の場を準備しているが、機会は少ない。 1.山田高等学校に行ったことがある 小6 中3 (未調査) 2.愛着度、「愛着がある」「どちらかと言えば愛着がある」と答えた小中学生 山田高 60% 工科大 75% 3.香美市内からの山田高校への進学率21% 4.香美市から工科大学への進学者数 8名	1.山田高等学校に行ったことがある 小6 50% 中3 80% (コラボ調査) 2.愛着度、「愛着がある」「どちらかと言えば愛着がある」と答えた小中学生 山田高 65% 工科大 78% (コラボ調査) 3.香美市内からの山田高校への進学率35% 4.香美市から工科大学への進学者数 10名	香美市内の小中学生が山田高校へ足を踏み入れる場の設定 ・香美市理科クラブ ・香美市デイキャンプ ・山田高校生、高知工科大学の小中学校への関わる取組(放課後子ども教室、読み聞かせ、授業支援等) ・工科大学のサークルを活用した活動の充実 ・キャリアチャレンジデイやキッズチャレンジデイでの山田高生徒や工科大学生の力を借りた活動 ・よってたかつて生涯フォーラムへの参加	【評価 B】 ①小中学生が山田高校に行く機会の場の設定(文化祭や入学説明会への呼びかけ) ②山田高校生、高知工科大学の小中学校への関わる取組実施(7校) ③工科大学のサークルを活用した活動実施(サイカット・電脳かかし・写真サークル・吹奏楽部等) ④キャリアチャレンジデイやキッズチャレンジデイへの支援(約30人) ⑤よってたかつて生涯フォーラムへの参加(山田高校やクロススクエアでの開催)	【評価 B】 1.山田高等学校に行ったことがある(中3 89.6%) 2.愛着度、「愛着がある」「どちらかと言えば愛着がある」と答えた小中学生(未実施) 3.香美市内からの山田高校への進学率29.2% 4.香美市から工科大学への進学者数 7名	3	3	①香美市理科クラブ・山田高文化祭等での小中学生と高校生の交流	②③山田高校生・高知工科大学生による学習ボランティア等による特別授業等の実施	④キャリアチャレンジデイ・キッズチャレンジデイの実施	香美市の多くの児童生徒が山田高や工科大学に親しみを感じ、身近な学校・進学先と考える。 1.山田高等学校に行ったことのある 小 65% 中3 100% 2.愛着度、「愛着がある」「どちらかと言えば愛着がある」と答えた小中学生 山田高 60% 工科大 75% 3.香美市内からの山田高校への進学率 35% 4.香美市から工科大学への進学者数 30名	
② 高知工科大学の施設や「知」を活用した連携活動の推進 (学校)	・キャリアチャレンジデイの実施 ・香美市音楽会、コラボプレゼンフェアの実施 ・現職教職員による大学での講義実習 ・子どもの育ち長期調査の実施	小中学生はキャリアチャレンジデイや音楽会、プレゼンフェア等の実施により工科大学を身近に感じることができた。しかし、大学のある「まち」としての実感はまだまだ薄い。 1.工科大学に行ったことがある 小6 100% 中3 100%以上 2.工科大学に愛着がある 市民 75.0% (よってたかつてアンケート) 3.日常的に学習の交流ができる小中学校 4校 (市調査)	1.高知工科大学に行ったことがある 中3 100% 2.工科大学に愛着がある 市民 75.0% (よってたかつてアンケート) 3.高知工科大学の小中学校への学習支援参加 4/10校 (聞き取り)	・キャリアチャレンジデイの実施 ・香美市音楽会、コラボプレゼンフェアの実施 ・現職教職員による大学での講義実習 ・子どもの育ち長期調査の実施	【評価 B】 ①キャリアチャレンジデイの実施(10月26日) ②香美市音楽会の実施(11月16日)コラボプレゼンフェア(中止) ③現職教職員による大学での講義実習(未実施) ④子どもの育ち長期調査の実施	【評価 B】 1.高知工科大学に行ったことがある(中3 96%) 2.工科大学に愛着がある 小59.7%・中63.6%(よってたかつてアンケート) 3.高知工科大学の小中学校への学習支援参加 4/10校	2	3	①キャリアチャレンジデイの実施	②香美市音楽会・コラボプレゼンフェアの実施	③工科大学での講義実習の実施	④子どもの育ち長期調査の実施 → 実施の再検討	香美市の児童生徒や市民が高知工科大学の施設と学生、教職員等を身近に感じ、日常的な交流ができる。 1.工科大学に行ったことがある。 小6 100% 中3 100% 2.工科大学に愛着がある。 市民 85% 3.日常的に学習の交流ができる小中学校 6校

<視点3>

夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します

(3) 生涯を通じた豊かな学びと文化・芸術、スポーツ活動の充実

【関係性】到達目標の達成状況 A:4.3 B:3.2 C:1

			行動実績・到達目標の達成状況の内部評価				内部評価							
			A: 目標(予定)を達成できた、B: 目標(予定)を一部達成できなかった、C: 目標(予定)をほとんど達成できなかった				4: 想定以上の成果、3: 概ね想定どおりの成果、2: 成果が得られたが改善が必要、1: 見直しが必要							
対策名	取組の概要	年度当初の現状(課題等)	具体的な到達目標(有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み(計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部評価	外部評価	R1	R2	R3	R4	R5	令和5年度末達成目標(後期到達目標)
① 美術館による講座、情報発信、収蔵作品の活用 (生)	・アトリエ講座の充実 ・小学校のみならず、中学校での出前講座の開設 ・収蔵作品の持ち味を活かし見せ方を工夫した展覧会を企画 ・展覧会や講座の情報を広報やチラシで配布。美術館の催しを掲載できる情報誌から情報サイトへも拡充し、香美市内外へ多く発信	年5～6回の展覧会、アトリエでの講座や展示室等の貸館事業を続け、美術館の活動が知られてきてはいるが、アンケート結果から、美術館に訪れる方がまだまだ少ないのが現状。 1.アトリエ講座の参加率 86% 2.小学校全校への出前講座 7校 3.情報サイトによる掲載を2社以上 4.収蔵作品の展覧会年2回、活用率 62%	年5～6回の展覧会、アトリエでの講座や展示室等の貸館事業を続け、美術館の活動が知られてきてはいるが、アンケート結果から、美術館に訪れる方がまだまだ少ないのが現状。 1.アトリエ講座の参加率 87% 2.小学校全校への出前講座 7校 3.情報サイトによる掲載を1社増やす 4.収蔵作品の展覧会年2回、活用率 64%	・企画展の期間中に関連したアトリエ講座を3回開講。 ・中学校への美術館や鑑賞教育の普及活動を行う。 ・展覧会情報をFacebookへも掲載開始 ・似たテーマ等収蔵作品を比べてみてもらうことで新たな展示方法を模索する。	【評価 A】 ・計画どおり企画展に関連したアトリエ講座を3回開講できた。 ・中学校への出前教室や鑑賞の呼びかけを1回行った。 ・展覧会関連情報を8回Facebookへ掲載できた。 ・同じテーマや反対の作風の収蔵作品を比べてみてもらうことで新たな展示ができて来館者の評判も良かった。	【評価 A】 今年度は漫画家の西原理恵子展や無名だが高齢の女性をターゲットにした伊与木潤子展が思惑どおり好評で、例年より来館者が増加した。 1.アトリエ講座の参加率 93% 2.小学校全校への出前講座 7校達成 3.情報サイトによる掲載を2社増やした 4.収蔵作品の展覧会年2回、活用率 81%達成	4	4	①美術館による講座の充実 ②中学校への出前講座の推進 ③情報サイトの拡充 ④収蔵作品の活用	③美術館の情報発信	②市内小中学校全校実施	1.アトリエ講座の参加率 89% 2.小学校全校への出前講座 10校 3.情報サイトによる掲載を3社 4.収蔵作品の展覧会年3回、活用率 70%	美術館の収蔵作品を活用した展覧会で来館者を増やし、香美市内外の方に広く美術館を利用してもらう。	
② 生涯スポーツの推進 (生)	・香美市体育大会や軽スポーツ大会、ファミリースポーツフェスティバル、体力テスト等の開催。 ・県民スポーツフェスティバル等への参加の周知。 ・市広報を中心に各種大会等の情報を提供、市ホームページでの情報提供の充実を図る。 ・ホームページの充実。 ・体育施設の計画的な改修、整備を行う。 ・スポーツ推進委員や体育協会、スポーツ少年団、庁内関係各部署等と連携した生涯スポーツの推進。	市民がそれぞれの世代に応じた運動やスポーツを行えるように、そのきっかけづくりとなる各種大会やスポーツイベントの開催数がまだまだ少ない。ストレスや運動不足、食生活の変化等が生活習慣病を生み出している。日常生活の中で生涯にわたってスポーツを楽しむことは、健康の保持増進や体力の向上を促し、生きがいのある豊かな暮らしに役立つものであり、子どもや高齢者、障害者を含むすべての市民が気軽にスポーツを楽しむことができる環境整備に努める必要がある。 1.各種大会やイベント開催数 年39回 2.体育施設等年間利用者数 168,528人 3.1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2回以上、1年以上実施している人の実施率 32.3%	市民がそれぞれの世代に応じた運動やスポーツを行えるように、そのきっかけづくりとなる各種大会やスポーツイベントの開催数がまだまだ少ない。ストレスや運動不足、食生活の変化等が生活習慣病を生み出している。日常生活の中で生涯にわたってスポーツを楽しむことは、健康の保持増進や体力の向上を促し、生きがいのある豊かな暮らしに役立つものであり、子どもや高齢者、障害者を含むすべての市民が気軽にスポーツを楽しむことができる環境整備に努める必要がある。 1.各種大会やイベント開催数 年39回 2.体育施設等年間利用者数 170,000人 3.1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2回以上、1年以上実施している人の実施率 33.0%	・香美市体育大会や軽スポーツ大会、ファミリースポーツフェスティバル、体力テスト等の開催。 ・県民スポーツフェスティバル等への参加の周知。 ・市広報を中心に各種大会等の情報を提供、市ホームページでの情報提供を行う。 ・体育施設の計画的な改修、整備を行う。 ・スポーツ推進委員や体育協会、スポーツ少年団、庁内関係各部署等と連携した生涯スポーツの推進。	【評価 B】 ・香美市体育大会や軽スポーツ大会、体力テスト等の開催。 ・県民スポーツフェスティバル等への参加の周知。 ・市広報を中心に各種大会等の情報を提供、市ホームページでの情報提供を行う。 ・体育施設の計画的な改修、整備を行う。 ・スポーツ推進委員や体育協会、スポーツ少年団、庁内関係各部署等と連携した生涯スポーツの推進。 ・ファミリースポーツフェスティバルについては、雨天のため中止であった。	【評価 B】 1.各種大会やイベント開催数 年34回 2.体育施設等年間利用者数 139,127人 3.1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2回以上、1年以上実施している人の実施率 : アンケート未実施 以上の数値は、令和元年12月途中までの実績。実施率については、毎年のアンケート調査はできないので、本年度の実施率は不明。	2	2	①体育施設の計画的な改修、整備 ②各種大会やフェスティバル等の開催、情報発信 ④市広報やホームページ等の充実及び情報提供の充実を図る	③関係部署等と連携して、心身の健康増進を図る。	子どもや高齢者、障害者を含むすべての方が、それぞれの世代に応じた運動やスポーツを主体的に継続して行い、健康の保持増進や体力の向上を促し、生きがいをもって豊かに暮らす。 1.各種大会やイベント等の年間の延べ開催数 50回 2.香美市内の体育施設等の年間利用者数 175,000人 3.1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2回以上、1年以上実施している人の実施率を40% 4.施設の計画的な改修、整備 土佐山田スタジアムの人工芝の張替え 市民グラウンドの改修 その他計画的な改修や整備を行う。			
③ 市民のニーズに沿った地域の教育力を高める公民館活動 (生)	・各教室・公民館・地区公民館等で、利用者からアンケート等を取り、市民が興味のある企画を調査。 ・現在、中央公民館・各小中学校で登録されている人材及び生涯学習に関する講師・指導者の募集を行い、取りまとめ。学校や公民館事業(教室やサークル指導)に協力していただける方の登録 ・人材バンクの学校・地区公民館・登録者との中継ぎ ・市民大学、市民セミナー等の中央公民館主催の教室、地区公民館主催の教室	中央公民館主催の事業ではニーズに沿った教室等開催を計画している。より多く参加してもらえるよう内容の見直しが課題。 地区公民館での様々な教室は高齢化に伴い、参加者が減少している。高齢者や新たな参加者を呼込む事業の展開が必要である。 1.公民館主催事業の参加者 2,935名/年 2.公民館利用経験割合 中央公民館 63.3% 地区公民館 51.8% (よってたかってアンケート) 3.生涯学習に関する講師・指導者を登録 人材バンク登録者数 21名	中央公民館主催の事業ではニーズに沿った教室等開催を計画している。より多く参加してもらえるよう内容の見直しが課題。 地区公民館での様々な教室は高齢化に伴い、参加者が減少している。高齢者や新たな参加者を呼込む事業の展開が必要である。 1.公民館主催事業の参加者 3,500名/年 2.公民館利用経験割合 中央公民館 63.3% 地区公民館 51.8% (よってたかってアンケート) 3.生涯学習に関する講師・指導者を登録 人材バンク登録者数 21名	・各教室・公民館・地区公民館等で、利用者からアンケート等を取り、市民が興味のある企画を調査。 ・現在、中央公民館・各小中学校で登録されている人材及び生涯学習に関する講師・指導者の募集を行い、取りまとめる。学校や公民館事業(教室やサークル指導)に協力していただける方の登録 ・人材バンクの学校・地区公民館・登録者との中継ぎ ・市民大学、市民セミナー等の中央公民館主催の教室、地区公民館主催の教室	【評価 B】 ①中央公民館主催の教室では、市民大学、市民セミナー、パソコン教室、英会話教室、演劇公演にてアンケート調査を行った。 ②人材バンクの事業実施要綱を新たに作成し、以前登録をされた方に再度登録を依頼し、11名の方に登録していただいた。 ③人材バンクの中継ぎをする案件はなかった。 ④市民大学3講座(人権教育1、生涯学習2)、市民セミナー10講座、市民セミナーまつり、地区公民館主催事業もそれぞれ行われた。	【評価 B】 1.公民館主催事業の参加者 3,500名/年を目標としたが達成は微妙。(1/15現在2,558名) 2.公民館利用経験割合 アンケートを実施していない。 3.生涯学習に関する講師・指導者を登録(再登録) 人材バンク「まちの先生」登録者数 11名	2	2	①市民大学等主催教室でアンケートの実施 ②市民大学等主催教室等の実施 ③人材バンクの募集 ④人材バンク講師の活用	市民のニーズに対応した講師の選定、新たな教室等を企画し、市民の交流の場、生涯学習の場となる。 1.公民館主催事業の参加者 3,500名/年 2.公民館利用経験割合 中央公民館 70% 地区公民館 60% 3.生涯学習に関する講師・指導者を登録 人材バンク登録者数 300名				

(3) 生涯を通じた豊かな学びと文化・芸術、スポーツ活動の充実

行動実績・到達目標の達成状況の内部評価
A: 目標(予定)を達成できた、B: 目標(予定)を一部達成できなかった、C: 目標(予定)をほとんど達成できなかった

内部評価
4: 想定以上の成果、3: 概ね想定どおりの成果、2: 成果が得られたが改善が必要、1: 見直しが必要

対策名	取組の概要	年度当初の現状(課題等)	具体的な到達目標(有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み(計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部評価					令和5年度末達成目標(後期到達目標)	
							内部評価	外部評価	R1	R2	R3		R4
④ 香美市読書活動の推進 (生学)	<ul style="list-style-type: none"> 図書館利用者及び貸出の増加促進 アウトリーチサービスの推進 ボランティアと協働した図書館づくり 中学生・高校生の利用の促進 子ども司書養成講座の推進 および受講者の確保 学校との連携 オーテピア高知図書館との連携 高知工科大学との連携 	<p>市の1人あたりの貸出冊数は、県平均(3.85冊)よりも下回っている。自館資料も十分ではなく、他館からの借受で補っている状況である。</p> <p>学校との連携に関しては、学校への貸出冊数は増加したが、香美市立図書館の資料だけでは充分に揃わず、他館からの借受で補っている。</p> <p>1.年間1人あたりの貸出冊数 3.68冊(平成30年度実績) 2.子ども司書新規資格取得者 18名(平成30年度実績) 3.学校からの貸出依頼件数 36件(平成30年度実績)</p>	<p>1.年間一人あたりの貸出冊数を4冊以上にする。</p> <p>2.子ども司書新規資格取得者を小学校5・6年生児童数の5%以上にする。</p> <p>3.学校からの貸出依頼件数を50件以上にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 図書館利用者及び貸出の増加促進を図る。 寄贈図書、高知工科大学の長期借受などにより資料の新鮮さを図る。 アウトリーチサービスを推進する。 中学生・高校生の利用の促進を図る。(ティーンズ通信の発行、選書会) 学校、図書支援員との連携を密にし、子ども司書養成講座を推奨し、受講者を確保する。 出前授業、探究的な学習への支援をする。 ボランティアと協働した図書館づくり(ブックスタート・イベント・お話し会など) 高知工科大学、オーテピア高知図書館との連携 	<p>【評価 B】</p> <p>①図書館利用者及び貸出の増加促進を図るよう、館内の改善に努めた。</p> <p>②蔵書の見直しをかけ、寄贈図書の整理、分館との資料交換、高知工科大学の長期借受などにより資料の新鮮さを図った。</p> <p>③アウトリーチサービスを推進し、利用団体を増加させることができた。</p> <p>④中学生・高校生の利用の促進を図るようティーンズ向けの図書を購入了。</p> <p>⑤学校、図書支援員との連携を密にし、子ども司書養成講座を推奨し、受講者を確保することができた。</p> <p>⑥出前授業、探究的な学習への支援を行うよう図書館訪問を積極的に受け入れた。</p> <p>⑦ボランティアと協働した図書館づくりを行い、ブックスタート・イベントへの参加、研修会の開催など様々な取り組みを行った。</p> <p>⑧高知工科大学、オーテピア高知図書館との連携を密にし、図書館運営をより豊かなものとした。</p>	<p>【評価 B】</p> <p>1.年間一人あたりの貸出冊数は3.55冊であった。 【令和元年12月31日現在の香美市人口】 26,088人 【平成31年1月1日から令和元年12月31日の貸出冊数(団体貸出を除く)】 92,699冊 【一人あたりの貸出冊数】 ・本館 3.81冊 ・香北分館 3.03冊 ・物部分館 1.83冊 ・全館平均 3.55冊</p> <p>2.子ども司書新規資格取得者率を児童数(小学校5・6年生)の5%以上にすることができた。 【子ども司書受講者数】(小学5・6年生)18名 【平成31年4月1日現在の児童数】(小学5・6年生)359名 【新規有資格者率】 18名÷359名×100=5.01%</p> <p>3.学校からの貸出依頼件数を50件以上にする。 【件数】(平成31年1月から令和元年12月31日) 本館 37件 香北分館 13件 物部分館 4件 合計 54件</p>	3	3	①子ども読書活動の推進	②子ども読書活動の充実	③子ども司書要講座	④アウトリーチサービス	<p>生涯にわたって学ぶことができる図書館として、学ぶための環境整備や各年代層に合う資料の整備をする。また、地域・家庭・学校等と連携し、読書活動の推進を図る。</p> <p>1.年間1人あたりの貸出冊数 4冊 2.子ども司書新規有資格者率(小5・6年)児童数の5% 3.学校からの貸出依頼件数 50件</p>
⑤ 人権教育の推進 (生学)	<ul style="list-style-type: none"> 人権講演会や人権映画上映会の開催 人権教育学習会の開催、広報活動 小中学校人権学習で使用できるリーフレットの作成 小中学校の人権参観日、家庭・教職員の研修と支援 	<p>人権教育学習に参加する市民に限られ、一定以上の広がりが見られない。</p> <p>学校では、「いじめ」撲滅のため、児童生徒が互いに人権意識を高め、「いじめ」を発生しない集団づくりを行う必要がある。</p> <p>1.人権啓発講演会参加人数 112名 2.高知県人権教育研究大会参加 84名 3.小中累計いじめ認知件数 53件(学校別いじめ調査)</p>	<p>研修や研究大会への参加者が固定化されており、参加者の層を広げる取組が必要である。</p> <p>学校では、「いじめ」撲滅のため、児童生徒が互いに人権意識を高め、「いじめ」を発生しない集団づくりを行う必要がある。</p> <p>1.人権啓発講演会参加人数 120名 2.高知県人権教育研究大会参加 90名 3.小中累計いじめ認知件数 各校1件以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人権講演会や人権映画上映会の開催 人権教育学習会の開催、広報活動 小中学校人権学習で使用できるリーフレットの作成 小中学校の人権参観日、家庭・教職員の研修と支援 	<p>【評価 B】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人権講演会や人権映画上映会の開催 人権教育学習会の開催、広報活動 小中学校人権学習で使用できるリーフレットの作成 小中学校の人権参観日、家庭・教職員の研修と支援 	<p>【評価 C】</p> <p>1.人権啓発講演会参加人数107名 2.高知県人権教育研究大会参加悪天候のため中止 3.小中累計いじめ認知件数 各校1件以上 講演会、映画上映会のアンケート結果をみると、参加者の多くを70歳代以上が占めていた。さまざまな年齢層の方に関心をもってもらえるような企画、広報活動の充実が必要。</p>	2	2	①人権啓発事業	②人権学習会の開催	③人権教育副読本作成事業	②学校での人権研修の開催	<p>市民の人権意識が高まり、互いの立場や思いを尊重できるようになる。</p> <p>学校が、「いじめ」を見逃さない、「いじめ」を発生させず、安心して学校生活を過ごせる場になる。</p> <p>1.講演会、映画上映会集客数 各150人 2.高知県人権教育研究大会 100人 3.小中いじめ認知件数 各校1件以上</p> <p>未解消数0件</p>